

道の徒聖

一九五八年三月十七日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）
第五卷 第七号 一九六一年七月一日発行



1961

7月号

末日聖徒イエス・キリスト教会



も く じ

予言者のことは……「美しい考えと理想」という名の彫刻家

……大管長 デビッド・O・マッケイ……三六二

伝道部長メッセーじ……イエス・キリストにどうですか？ポール・C・アンドラス……三六六

質問への答……サタンは祈りにこたえる力があるか

……ジョセフ・フィードリング・スミス……三七〇

モルモンの教義……祝 福 師……佐 藤 竜 猪……三七三

新しい讃美歌によせて……柳田 聡子・高木富五郎……三七八

苦痛の中の幸福……立 野 嘉 久……三八二

山 猫……スターリング・W・シル……三八四

け い ず……紀元節問題と正しき先祖探求……渡 部 正 雄……三八九

ヤンガージェネレーション

夏 と 私……笹 尾 敦 子……三九二

夏の思い出……村 田 陽 子……三九三

懐しい友へ……長 谷 川 和 子……三九四

一陣の涼風……四十物 浩 鳥……三九五

支部訪問……東京西支部訪問記……渡 部 正 雄……三九六

創作劇……汚れなき剣……大 塚 昌 治……三九九

伝道本部だより……四〇六

アロン神権……ブランチティーチング・レッスン……四〇八

メルケゼデク神権……第一長老定員会の計画……四〇九

子供日曜学校ガイド（八月用）……四一〇

日曜学校ガイド（八月用）……四一二

MIAリーダー（八月用）……四一六

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史料……ジョセフ・フィードリング・スミス……四二〇

1961年7月号

聖

徒

の

道



予言者のことば

「美しい考えと理想」という名の彫刻家

大管長 デビッド・O・マッケイ

「わが子よ、あなたの父の戒しめを守り、

あなたの母の教えをすてるな。

つねに、これをあなたの心に結び、

あなたの首のまわりにつけよ。

これは、あなたが歩くとき、あなたを守り、

あなたが目ざめるとき、あなたと語る」

しんげん第六章二十一—二十二

これはどんな意味を含んでいるか、また旧約聖書の中から引用したこのわずかな忠告が、私たちの日常生活にどのように応用されるか、これからしらべてみよう。

あなたが父のもっている理想に賛成をするということは、父に対して忠誠の念をもっているということである。「あなたの母の教えをすてるな」とくに誘惑を受けたときに「あなたの母の教えをすて」ないということは道徳的勇気のあることを示している。「つねに、これをあなたの心に結び、あなたの首のまわりにつけよ」とは、高い理想をいつも胸

に抱いていることを象徴的に言いあらわしたのである。「これは、あなたが歩くとき、あなたを守り、あなたが目ざめるとき、あなたと語る」という言葉は、清く汚れない良心のねうちと良い酬いとを印象的に言いあらわしている。

このように、この偉大な訓戒の言葉の中には、忠誠と道徳的勇氣と、清く汚れない良心からくる氣高い考え、もしくは心の平安とが含まれている。

愛は人間の心の中にある最も貴い性質であって、忠誠は愛から生まれた最も氣高い徳である。氣高い心をもった両親にふさわしい息子や娘となることは、人生に於ける最も大切な義務の一つである。義しい両親の言いつけに従わないということは、神の命に従わないと同様責むべきことである。親子の間には絶対の信頼がある、これは神聖なものであつて決して破ってはならない。たいていの子供は親から生まれある名を受けついでいる、彼らはこれを汚してはならない。りっぱな信頼を裏切る者こそ、親からもらった名前を汚す者である。

道徳的勇氣はけつして出しやばりではなく、誠実な心から出るものであつて、愛について人間の心がつけている本質的な美徳である。たれでも肉体的勇氣を要するはなれわざを見るとぞくぞくするような感激を覚えるが、最も偉大な勇者たちは道徳的勇氣をあらわすことによつてその月桂冠を勝ち得たのである。

好色なヘロデを公然と非難したバプテスマのヨハネ、ユダヤの参議院にひき出されたペテロ、ローマの牢獄の中に入れられたパウロ、ウオルムスの議會に於けるルーテル、カーセージの獄に在つて殉教に直面していたジョセフ・スミス、およびピラトの前にひき出されたもうたときのイエス・キリストまた十字架にかけられたもうたときのイエス・キリストはこの最もよい例である。

「海岸に立つてはるか沖合に船が波にもまれてゐるのを見ることは愉快である。高い城の窓ぎわに立つて、目の下に行われている戦と危険を冒すのを見おろしていることは愉快

である。しかし真理という不敗の地に立っているくらい愉快なこととはどこにもない」とベ
ーコン卿は言った。

昔から変らないが、われわれは正しく考え、正しく語り、正しく行う人々を今日求めている。

「その心に思うごとくその人となりもまた然ればなり」（しんげん二十三〇七）という聖句は、心理学からも妥当であり、また福音が真実であるように真実である。心に思うところがその人の容貌をつくる。心に思うところがその人の心を天上へひき上げもするし地獄へひきおとしもする。蒔くところの考えが、いろいろな行為と習慣と性格となって刈りとられる。人の将来を定めるものこそその人の考えにほかならぬからである。その人の心にもっているおもな考えによって、その人の人生は成功にもなるし失敗にもなる。その人の仲間くらいその人の性格を明らかに語るものはないと同じように、その人の抱いている考えくらいその人の将来をあらかじめ語るものはほかにない。

ジョン・キーツは美しい霊の世界を見たことのある人のような顔であったと言われる。彼の心の目は永いこと美をじっとみつめ、彼はすばらしく美しい霊の世界を愛していた。彼の心は永いことその世界と共に在ったので、彼の考えていた世界の美しさが彼の心にしみこんだばかりでなく、この偉大な詩人の顔の線の一本一本まで「美しい考えと理想という名の彫刻家」の手によって見ごとに美しくぎざまれたのであった。

人がその愛している考えと同じようになるのはきわめて早い。人が日光の中にも曇天の中にも永い間共に暮していると、年をとってから、兄弟姉妹が似ているようにお互いが似てくることを学者は気づいている。エマーソンは、人が同じことを長く考え同じことを長く愛しているとその顔だちまで同じになると言っており、この現象を説明している。

「気むつかしい気質や心の不満を永い間もっている青年の顔にも乙女の顔にも美しさは見られない」。

ニューエル・ドワイト・ヒルはその著「心と正しい考え」の中で、イエス・キリストについて「彼は多くの国々を代々にわたって堂々と歩きたもうが、それにもかかわらず常に最もやさしい最も親切な考え、威厳を伴うおだやかな考えを心に持っておりたもう。彼の考えは傷ついた心をいやす薬であった、すべての元氣のない者をひき立たせるつばきであった、茂みの中にとらわれた者を解き放つ力であった。また彼の考えは一つ一つのゆりかごのかたわらに天使を立たせた。受肉についての彼の考えは人間の体を永久に神聖なものにし、死についての彼の考えは死を聖いものにした。死んでも復活しても、彼の考えは天に通ずる大道を切り開いた。イエスに教えられて人々は考えることを学んだ。それは偉大な考えばかりでなく善い考えを学び、また考えを生活にあらわす方法も学んだのである」と言っている。

あなたがひとりで考えているときに良心の賛成を得ているなら、それは誠実な情けのこもった友人たちの交わりを得ているのと同じである。あなたが自分自身の尊敬を受けるねうちがあるなら、あなたは強い性格の人になる。良心はあなたの心と神のみたまとを結びつける鎖である。

始めに挙げたしんげん第六章二十節から二十二節までの聖句は、若い人々の幸福と自由とを切りつめるためのものではなくて、自由と幸福という特質をふたつながら高めるためのものである。気高い原則を固く守る者には、平安と満足という豊かな酬いが与えられる。末日聖徒イエス・キリスト教会の年若い会員たちが献身的の働きをしているのを知るときに、人は心に感激を覚える。わが教会の若人たちは強力に組織された装備の完全な大きな軍隊であって、不誠実と利己主義と罪惡とに対して不屈の抵抗を行い、純い生活と正義と真理とを守っている。

《伝道部長メッセージ》

イエス・キリストはどうですか



ポール・C・アンドラス

今日世界で最も必要なことは、イエス・キリストがどのようなお方であるかを正しく理解することです。私たちが住んでいるこの世界にはほとんど三十億の人間がいて、その中の約三分の一がクリスチャンであると公言している。でも、全世界のたかだか百七十万人がイエス・キリストを正しく理解しているのです。言葉を換えていうと、今日世界の人口の中で千七百六十五人について一人だけが、イエス・キリストがどのようなお方であるかを正しく理解しているのです。このことを考えてみてください。イエス・キリストがどのようなお方であるか正しく理解している人が一人ある毎に、イエス・キリストがどのようなお方であるか理解していない人が少くとも千七百六十四人あって、この千七百六十四人の大部分はおそらくイエス・キリストのことを耳にしたことさえありませんでしょう。世界中の人々の九十九・九四パーセントが、イエス・キリストがどのようなお方であるか正しく理解していないのは悲しむべき事実であります。

今日世界で最も必要な今一つのことは、人間がどのような者であるか正しく理解することです。今日世界中の人間のほとんど全部が、自分自身の何者であるかを知らないということは驚ろくべきことであり、また不幸なことでもあります。そして、たかだか百七十万そこそこの人たちだけが、人間が真に何者であるかに気づいているのであり

ます。言葉を換えていうと、千七百六十五人について一人だけが、人間が真に何者であるかを悟っているのであり、す。このことを考えてみてください。今日世界中にいるほとんど三十億の人間の中で九十九・九四パーセントまでが自分自身の何者であるかを知らないとは。

イエス・キリストが本当にどのような方であるかを考えると、世界中の人々のほとんど全部がイエス・キリストが本当にどのような方であるかに気づいていないことは最も不幸なことでもあります。これと同様に、人間が真にどのような者であるかを考えると、世界の人間のほとんど全部が自分自身の何者であるかに気づいていないことは最も不幸なことでもあります。世界中に住んでいる全人類は霊肉両面を持つ者であって、骨肉の体を持つと共に「霊」と言われている一層純粹な物質から成る体を持っており、す。この世へ生れてくる前に、全人類は「霊」の体をもつて天に住んでおり、天上の大家族に属する子供たちでありました。全人類は、この「霊」の体を彼らが天上の大家族の中へ生れてくる時に得たのであります。彼らは文字通り実際に天にまします父なる神の子供たちであります。そして、この世へ生れてきたときに骨肉の体を得ました、すなわち彼らの「霊」の体が骨肉の体を着たのであります、それで彼らは天にまします私たちの父なる神の子供たちであります。この世に住んでいるあらゆる人間は文字通り

実際に神の息子であり娘であります、彼らのほとんど全部がこの偉大な事実をすっかり忘れて人生を送っているのは全く気の毒であります。この人々がもし眞実を悟っていったらどんなに大きな恵みが出てくることでしょう。この人々はどうにか幸福になることであり、どんなにかもつと人生を有益にまた義しく送ることでありましょう。

イエス・キリストは天上の大家族の中の長男であり、天の両親が最初に生みたもうた御子であって、その時の名前には「エホバ」でありました。それであり、すから、イエス・キリストはこの世に生を受けたあらゆる人類の中の最年長の兄弟であります。イエス・キリストは、天上の大家族の子供たちが骨肉の体を受けてこの地球に住む機会が得られるように、この世界を創造する命を父なる神から受けました。イエス・キリストは「エホバ」と言われている偉大な方と同じ御方であります。「エホバ」はこの世の創り主であってまた旧約聖書にあらわれている神であります。今からほとんど二千年前に「エホバ」はナザレのイエスとしてこの世へお生まれになりました。ナザレのイエスの肉の母はマリヤでありましたが、肉の父は父なる神でありました。それであり、すから、イエスは天にまします父なる神が生みたもうた肉の独り子であります。イエスはその生と死と復活とを通じて贖いを全うしました、イエス・キリストによって全人類は復活して肉体の死にうち勝つので

あります。これによって、イエス・キリストは全人類の贖い主であります。イエス・キリストはその贖いとその教えとによって、もしも全人類が悔い改めてイエス・キリストの教えに従うならば彼らの罪が拭い去られることができるようになさいました。これによって、もし全人類がイエス・キリストを贖い主として受け入れるなら、イエス・キリストは全人類の救い主であります。この世の全人類のほとんど全部が、イエス・キリストが本当にどのようなお方であるかを悟っていないことはまことに気の毒であります。

この世の全人類のほとんど全部がイエス・キリストを真に理解しているなら、彼らはどんなにか幸福になることであり、どんなにかもっと人生を有益にまた義しく送ることでありましょう。

世間にはキリストに関する一つの偽りの教義があります。これはクリスチャンであると公言する約十億の人々の大部分さえも、イエス・キリストがどのようなお方であるか理解していないという不幸な事実の主としてよるのであります。その偽りの教義というのは「三位一体」という教義であります。すなわち、三つの神があるが本当に三つの神があるのではなくて唯一一つの神があるのみであるという教義であります。この「三位一体」の教義はひどい混乱であって、どんな人間にも理解することができず、この教義を教える教師でさえも説明することができません。この教

義を説く教師の一人に、誰かが解りにくいと言うと、その教師は理解することは不可能である、しかしそこがこの教義の美しいところであると答えます。そして教師たちはさらに言います。この教えは理解しなくてはならぬことはなくて、とにかく信じさえすればよいのである、と。このような不合理な教義が、クリスチャンであると公言している約十億に上る人々のほとんど全部が信じている根本の信仰であるということはまことに不幸であります。この教義によって、世の中のいわゆるキリスト教会はイエス・キリストからその個性を奪いとおります。真実を申しますと次の通りであります。すなわち三人の神、父なる神と御子なる神と聖霊なる神とがあります。そして、この三人の神々は別箇の体と個性とをもっておりになります。その目的に於ては「ひとつ」になっておいでになります。ジョセフ・スミスが、千八百二十年にニューヨーク州にある自分の家の近くの神聖な森から出てきたとき、彼はたった今父なる神とその御子イエス・キリストの訪ずれを受けたので、あの「三位一体」という教義が間違っていたことを知りました。今日この世のいわゆるクリスチャンのほとんど全部が、この悪魔の教義によって、イエス・キリストが本当にどのようなお方であるかということについて盲目にさ

れていることはまことに気の毒であります。

千九百九年の冬、スコットランドのエデンボローにある

エデンボロー大学のマックウェンホールで、大英帝国の首相であるバルフォア卿その人が「万国の民を結び合わせる道徳的価値について」と題して講演をしたときに起った一つのできごとが伝えられています。この時首相は、世界にあるいろいろの国民を結び合わせる根本的のきづな、すなわち「共通の知識」、「共通の商業的利益」、「外交関係による交際」などを興味深く説きました。聴衆はこの巧みな演説に万雷のような拍手と喝采を送りました。司会者が立ち上って、自分と聴衆の感謝の言葉を述べようとしたとき、その大学で学位をとるために勉強していた日本人の一留學生が立ち上り、バルコニーから身を乗り出して言いました。「しかしバルフォア首相、イエス・キリストはどうですか」と。ラング教授からこのできごとを聞いたロビン・E・スペヤ氏は次のように書いています。

「その時広間は、針の落ちた音さえ聞えるくらいしんと静まった。一堂の人は一人のこらずこの批難が正しいことを感じた。世界に於ける最大のキリスト教国の一流政治家である首相は、人類を結び合わせるべき見当ちがいの紐を論じて、根本的に欠くべからざるきづなを落していたのであった。また、一堂の人は一人のこらず、遠い遠い非キリスト教国から来た日本人の一留學生が自分の忘れっぽさを思い出させたことが、この場合の劇的要素であったことを感じた」と。「イエス・キリストはどうですか」。

然り、今世界で最も必要なことは、イエス・キリストがどのようなお方であるかを正しく理解することであります。イエス・キリストに関する真理をこの世に住んでいる人々に伝える責任は、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員の肩にかかっています。ジョセフ・スミスがかつて「心から柔和に、心から真面目に出て行きて、イエス・キリストと、かれが十字架にかかりしことを宣べよ。しかしして、他人とその持てる信仰または信仰体系のために論争することなくして確固たる方針をつづけよ。われこのことを誠命によりて言う。すべてこれを守らざるものは、その頭上に迫害を招くべし、されどこれを守る者は常に聖靈に満されん。われこのことを予言として宣言す」と言ったのは何とも不思議でありません。あなたは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員の一人として、まだイエス・キリストに関する真相を知らない人々に、その真理を伝える役目を果たしていますか。私たち一人一人は、非教会員である友だちや親戚の人々に、イエス・キリストに関する真相を指し示す機会を探し求めようではありませんか。これはもつと私たちに於いて学ぶときに、その人たちに興味を覚えさせる一つの方法であります、そして一度興味を与えたら、標準の宣教師レッスンを教えるはずであります。これらの人々にあなた自身が教えるか、さもなければ宣教師にたのんで教えてもらうために取りきめをしなければいけません。真理を知らない人々に真理の言葉を弘めてください。

質問への答

サタンは祈りに
こたえる力があるか



解答者 ジョセフ・フィールディング・スミス長老

(12使徒会会長)

質問。私たちの支部でフアイヤサイドを開いたときに、「サタンは私たちの祈りにこたえる力があるか」という質問が出ました。出席者の中には、サタンは実際祈りにこたえる、しかしそれは私たちをだますためにするのだと考えている、と言った人たちがいました。しかし、もし私たちが誠心を以て祈るなら、神と人との間に入って偽りのこたえをする力はサタンにない、と思った人たちもほかにありました。このように意見が二つにわかれたから、この質問に答えていただきたいと思えます。

解答。サタンに人をだます大きな力があることはすでに証明された事実である。サタンがその力を使って、多くの場合に人をだまして堕落させた例は聖典に見えている。アダムとイヴがエデンの園から追放されたとき、主は一人の天使をかれらにつかわして「救いの計画」を教え、またそれをかれらの子供たちに教えよと命じたもうた。アダムとイヴはこの言葉に従って、すべてのことをその息子娘たちに教えたが、サタンが彼らの中にやってきて言った

「われもまた神の子なりと。また彼らに命じて言いはけるは、アダムとイヴの言を信するなかれ、と。されば、彼らはアダムとイヴの言を信することなくサタンを神よりも愛でたり。人はその時より、肉体、肉欲、悪魔に従う者となり始めたり」(モーセの書五〇十三)。

サタンはまた誘惑によつて贖い主をほろぼそうと試みるみたがこれに失敗した。そして、「この神権の時代」に福音を回復する時がきたとき、サタンは明らかにそれを知つて、「救いを告げる言葉」をもつて父なる神と御子が現れたもう前に予言者ジョセフ・スミスをほろぼそうとしてあらゆる力を尽した。サタンの使命は破壊することである。サタンが昔天上の大会議で謀叛を起したとき、彼は主のみわざを破壊してすべての人間を自分の力に従わせようと決意した。そこで、われわれはサタンが大部分その目的をとげていることを認めざるを得ない。それは、サタンがすでに地上に生を受けたさわめて大勢の人々を説き伏せて、神の啓示したもうた真理からそむかせているからである。サタンはいつもあらゆる人の行く道に誘惑を置いて罪を犯させる。サタンはこれまで真理のふりをした偽りの教義を世の人々に教えて、多くの人々を自分に従わせた。

サタンはかつてモーセにあらわれて言った「人の子モーセよ、われを礼拝せよ、と。モーセ、サタンをうち眺めて言いはけるは、汝は誰なりや、見よ、われは神の独子の生写しなる一人の神の子なり。われ汝を礼拝すべきその栄光いずこにありや」(モーセの書一〇十二—十三)。

われわれはいつもサタンの言い寄りに抵抗するよう警戒していかなくてはならない(サタンはいつもわれわれが信用している友人や親戚の者のからだを借りてあらわれる)。サタンはわれわれの心の中に考えを入れる力をもち、言葉にあらわさないいろいろな感じであ

れわれにささやき、われわれをいざなつて肉欲や欲望を満足させる力をもつ。またそのほかいろいろな方法でわれわれの弱点や欲望を利用するのである。ニーフアイはこの事実をはつきり知つていたので、予言の賜によつて現代の人々に警告をのこして、サタンの言い寄りに抵抗するよういつも警戒し、そなえをしていることを求めた。次にニーフアイが現代の人々に与えた言葉をいくつか挙げる。

「悪魔の王国は必ずやり動き、またこの王国に属する者たちも必ず動かされて悔い改めなければならぬ。そうでなければ、かれらは悪魔の永遠の鎖に固くしばられ怒らされて亡びてしまふ」

「ごらん、その時に悪魔はある人々の心に入つて荒々しい行いをさせ、またこの人たちに善い事を怒らせる」

「またほかの人々をなだめ、この人たちをすかして肉欲をほしいままにさせるから、その人々は、シオンの中では万事よろしい。シオンは榮えて実に何事もみなよろしい、と言う。このように悪魔はこの人々をだまし、心を配つて地獄へつれて行くのである」

「悪魔はまたほかの或る人々にへつらつてこの人々を迷わせ、地獄はないものであると言ひ、また悪魔はないものであるから私は悪魔ではないと言ひ、このように耳にささやいて一度かかったら決して逃れられない恐ろしい鎖でとうとう縛つてしまふ」(ニーフアイ第二書二十八〇十九—二十二参照)。

われわれはサタンの力をあまりに軽々しく考えることなく、どのような源から出てくるものであつても悪事を行わせようとするあらゆる感じ、あらゆる不健全な思想または欲望、およびあらゆる説得に対して、たとえそれが非常に大事な友人から出てくるものであつても、われわれは誠実な心を武器としてこれに抵抗しなくてはならない。サタンはあらゆる詭計を心得ていて、人間を説き伏せて悪を

行わせる長い間の経験をもっている。ニーファイはまた次のような有益な忠告を与えた。すなわち、

「さて、私の愛する兄弟たちよ。私はあなたがまだ心に考えこんでいるのを認め、このようなことをあなたに戒しめなければならぬことをまことに悲しく思う。あなたがもし祈らぬばならぬことを教える「みたま」の言葉に聞き従うならば、あなたが祈らなくてはならないことを覚るであろう。悪魔は祈れと人に教えず、かえって祈ってはならないと教える。しかしごらん、よく言っておく。あなたが力を落さずにいつも祈らなくてはならない。そして自分たちの働きが自分の身も霊も救われるように天の御父がその働きを祝福したもうよう、キリストの御名によってまず天の御父に祈らないでは主の御前にどのような働きもしてはならない」と

(ニーファイ第二書三十二〇八―九)。

われわれは、へりくだった心でたえず主を祈り求めるのが主の誠命であると教えられている。救い主が弟子たちと共におられたとき、救い主は彼らに祈ることを教え、また父なる神にしばしば祈って模範を示したもうた。祈りには力があるから、主に祈り求めるときにはへりくだった敬けんな心で祈り求めなくてはならないとはっきり言えるであろう、これは主の誠命であるからである。山上の垂訓の際、イエスは弟子たちに告げて仰せになった。

「求めよ、そうすれば与えられるであろう。さがせ、そうすれば見出すであろう。門をたたけ、そうすればあけてもらえるであろう。すべて求める者は得、さがす者は見出し、門をたたく者はあけてもらえるからである」

「あなたがたのうちで、自分の子がパンを求めるのに石を与える者があろうか」

「まず神の国と神の義と求めなさい。そうすればこれらのものはすべて添えて与えられるであろう」と(マタイ伝七〇七―九、六〇三十三)。

ユダヤ人たちがイエスの権能について疑いをもったとき、イエスは彼らに答えて仰せになった。

「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも私の語っているこの教えが、神からのものかそれとも私自身から出たものかわかるであろう」と(ヨハネ伝七〇十七)。

もしわれわれが、へりくだった心と信仰とを以て、父なる神の祝福を求めて父なる神に近づくならば、主はわれわれに祈れと言っておきながら、サタンが人と神との間に立つてだますことを必ずお許しにならないと思われる。

教会に下った啓示の中には次のように誌してある。

「またわれ誠に汝らに告ぐ。わが友よ。われこれらの言を汝らにのこすは、われ近きに在る間に汝らわれを呼べというわが与うる誠命を汝らが心の中に思いめぐらすためなり」。

「すなわち、われに近づけ、さらばわれ汝らに近づかん。熱心にわれを求めよ。さらば汝らわれを見出さん。求めよ、さらば与えられ、叩けよ、さらば開かることを得ん」。

「何にてもわが名によりて御父にわがうところ汝らのため必要なことは汝らに与えらるべし。されど、もし何にても汝らに必要ならざることを願わば、かえって汝ら罪せらるることとなるべし」と

(「教義と聖約」八十八〇六十二―六十五)。

われわれはこのように、必要でないものを祈り求めてはならないと忠告をされている。必要でなくて、単に人の虚栄やおろかな欲望を満すものを祈り求めることがあまりに多い、そしてこのような祈

りがこたえられた時には自分自身に害を受けることがある。この最もよい例はマールテン・ハリスの場合に見られる。彼はモルモン經の原稿を他の人に見せることをお許しになるように願ひ求めたが、主はこれをお聞きとどけにならなかった。しかしマールテンが再三しつこく求めたので主はついに彼のねがいを聞きとどけたもようた。しかしこの結果、マールテンのみならず予言者ジョセフ、スミスにまで災いが及んだ。

そこで、主はへりくだった心でねがう祈りをしりぞけたまわれないという約束は確かであるが、祈り求めた或る場合に、そのねがいの通りにきき届けられないことも必要であらう。さらにまた、主が必ずしも常に近くにおられたまわれないことも本当である。

主をないがしろにし、主の誠命を守らず、祈りをしない人は、不幸が身に迫って祈りがききとどけられるように切に望んでいるとき、熱心に祈ってもこたえを得るのが非常にむづかしいことを知るであらう。

「祝福師」(二十六)

佐藤 龍猪

主はまた「われを求むること早き者は、われを見出してすてらるることなからん」と仰せになった(「教義と聖約」八十八〇八十二)。

子供たちが理解し始めるや、直ちに祈ることを彼らに教えるのは両親の義務である。子供たちには天にまします父なる神に祈る習慣をつくらせ、同時に祈りを捧げる理由をも理解させよ。この習慣が子供の時代に造られるならば、それは大人になってもなくなることなく、熱心な祈りを主に捧げて主の祝福を感謝する人々は、万一の場合に主は決してすてたまわれないということを期待することができであらう。

教会の会員諸氏は、モルモン經アルマ書第三十四章に誌してあるアミユレクの訓戒をたびごとく考えてみるべきである。

主は、真理を熱心に求める者が誠心をもつて祈りを捧げるとき、サタンが彼をだますことを必らずお許しにならないと、はつきり言うことができるであらう。

ともしくは Patriarch (ペトリアーク) もその中の職の一つである(「信仰箇条の研究」二七八頁、「教義と聖約」百七〇五、三十九参照)。

予言者ジョセフ・スミスは祝福師について次のように言った。

「かくして、今後彼はわが民ことこの頭の頭に授くる祝福師の祝福につける鍵を保ち、何人にも彼の祝福する者は祝福せられ、彼の咄う者は咄われ、かくても何にても彼のこの世に於て結ぶところは天に於ても結ばれ、彼のこの世に於て解くところは天に於ても解かるるなり。」「教義と聖約」百二十四〇九十二、九十三

一、祝福師 (Evangelist or Patriarch) 徒、大祭司、七十人、長老などの職がある

大神権 (メルケゼデク神権) の中には使が、祝福師 (Evangelist エヴァンヂェリス Patriarch (ペトリアーク)、すなわちヨセフの血統もしくはアダムの裔の中の最も年長の男子である。地球上どこにキリストの教会が建つていても、そこには聖徒たちの

子孫のために Patriarch (ペトリアーク) すなわち祝福師がなくてはならない。ヤコブがその子たちに Patriarch (ペトリアーク) 族長 (祝福師) として祝福を授けたと同じように「(予言者の教え) 一五一頁、創世記四十九章、使徒行伝二十一〇八、エペソ書四〇十一―十四、テモテ後四〇五参照」。

真の教会に対する背教があつて、神権とその中にある種々の職について真の知識を失つてしまつたから、また教会管理について祝福師の祝福が欠くことのできないものであることを知らないから、他の教派の誤つた言い伝えは Evangelist (エヴァンジェリスト) に巡廻説教師、宣教師、伝道者、宗教思想復興運動者などの意味を与えている (マッコンキー長老著「モルモンの教義」二二四頁参照)。

末日聖徒イエス・キリスト教会には世襲の職が二つあつて、その一は教会全体の祝福師であつたところの大祝福師 (Patriarch to the Church) であり、その二は管理監督 (Presiding Bishop) である。アロンの正統の子孫であつて且つその長子である者は、アロン神権の鍵を保つべきこの職、すなわち管理監督の職に就くべき適法の権利

がある (「教義と聖約」六十八〇十六―十八参照)。しかし、これまでまだその血統に属する人が明らかにされていないので、大祭司の職に在る者がこの職を行うことができるという啓示に従つて (「教義と聖約」六十八〇十五、十九参照)、当教会の創立以来、大祭司が管理監督に聖任されてきた (「救いの教義」第三卷一六〇頁参照)。

一方大祝福師の場合にはその血統が明示されていて、「この神権時代」に於ける主の啓示によつて予言者ジョセフ・スミスの父ジョセフ (ヨセフ)・スミス (初代) が千八百三十三年十二月十八日、末日に於ける初代の大祝福師として聖任された。それ以来大祝福師の職は世襲によつて続いている。ステーク部 (Stake) の祝福師は血統に關係なく選ばれ、十二使徒会の会員によつて按手聖任される。「大祝福師」、「祝福師」はまた大祭司である (「教義と聖約」百七〇三十九―五十三参照)。

祝福師の任務は教会員に祝福を授けることであるが、そのほかに大祭司、七十人、長老およびアロン神権者の任務も行う (マッコンキー長老著「モルモンの教義」五〇六頁参照)。

「按手聖任された祝福師」に加えて「血

族關係による祝福師」^{ベトリアーク} Natural Patriarch がある。日の栄の結婚によつて「族長の位」に入つた大神権者はのこらずアブラハム、イサク、ヤコブ等の保有した「祝福師の祝福」をひとりでに受ける、すなわちその子孫に対して「血族關係による祝福師」となるのである (マッコンキー長老著「モルモンの教義」五〇六頁参照)。

二、祝福師 (族長) の権能

この神権すなわち祝福師 (ベトリアーク) 族長の制度はアダムの時代にさだめられ、その権能は父からその息子へ伝えられてノアに至つた (「教義と聖約」百七〇四十一―五十二参照)。アダムの次に高い権能をもつノア (「予言者の教え」一五七頁参照) は、「大洪水」を通じてこの権能を後世に伝えたが、ノアから十代目のアブラハムは神から特別の恵みを受け「福音を受け入れた者はアブラハムの裔と同じく数えられ、アブラハムに与えられた祝福と同じ祝福を受ける」という約束と共に、この神権、すなわち祝福師 (族長) の神権はアブラハムの子孫を通じて続いた (アブラハムの書一〇一―四、二〇六―十一、「教義と聖約」八十四〇六―十六)。すなわちアブラハム

からイサク、ヤコブ、ヨセフ、エフライムを通してモーセに至るまで伝えられた。ヨセフの長子はマナセであったが、マナセがこの権能を保持する者として選ばれず、かえってエフライムが選ばれた理由は不明である。完全に記録が残っていたなら、この理由ははっきりわかっているにちがいない（創世記四十八〇一―二十二、「救いの教義」第三卷一六一頁参照）。

アブラハムの孫であるヤコブの子孫、すなわちイスラエル人がエジプトを出て荒野に旅をしていたとき（出エジプト記参照）、主なる神は彼らに向って、もし彼らが主なる神に仕えるならば、この神権の権能のすべてとそのすべての祝福とを彼らに与えよう、かくして彼らはこの祝福師（族長）の神権の制度の下に祭司國家を建てることのできるにちがいないと仰せになった（「救いの教義」第三卷一六一頁参照）。しかしながら、イスラエル人は神にそむいてこの偉大な名譽を受ける資格のないことを示した。そこで神は完全なままのこの神権とその儀式、すなわち日の栄の最高に昇る備えをさせる儀式とを彼らに与えるのを止めたもつた。

モーセが聖なる山に登って四十日四十夜

そこに留っていたとき、神はモーセに二枚の石の板を授けたもつた。その上にはイスラエル人が忠実であるならば彼らに与える数々の祝福を約束した神聖な誠命が書いてあつた。

モーセがこの二枚の板をもつて山を下りて見ると、イスラエル人は鑄物の子牛を飾つてこれを礼拝していた。モーセは怒つて石の板をなげうち、これをくだいてしまつた（出エジプト記二十四、三十二参照）。

その後モーセは再び聖なる山に登つて、神が書きたもつた別の石の板を二枚授けてきた（出エジプト記三十四参照）。しかし、この板の上には最初の板にあつたような神権の祝福と、日の栄に昇る備えをさせる儀式とはなかつた。神は一層高い祝福に關係のある部分をとりのぞいて、肉体にかかわる誠命だけをお与えになつた（ジョセフ・スミス改訳聖書出エジプト記三十四章、「教義と聖約」八十四〇十八―二十四参照）。

神はモーセをイスラエルの人々から取り去つてみもとへお召しになると共に、この聖なる神権も地上から取り去つておしまいになつた（「教義と聖約」八十四〇二十五参照）。

三、末日に於ける祝福師の系統

アブラハムの孫であるヤコブには男の子が十二人あつて長男をルベンといった（創世記三十五参照）。しかし、この長男ルベンに与えられるはずの長子権は、彼が罪を犯したために（創世記四十九〇四参照）弟のヨセフに与えられた。ヨセフはヤコブの愛したラケルの長男であり、ヤコブの息子の中でかけはなれて有能であつた。彼が非常に有能であつたことと、誠実であつたことと（創世記四十二―四十五参照）、またおそらくラケルの生んだ男の子であつたこととが、イスラエル（ヤコブ）の息子の中でこの高い権能を与えられるために選ばれた理由であると思われる（「救いの教義」第三卷一六二頁参照）。

しかし、或る不明の理由でこの権能はヨセフの第二子であるエフライムに与えられた（創世記四十八、四十九参照）。エフライムは聖書の中で「長子」と呼ばれている（エレミヤ書三十一〇九参照）。エフライム以後の祝福師の権能の系統はほとんど解つていない。

しかしながら、末日に於ける「この神権

の時代」に於て、主は啓示によってジョセフ（ヨセフ）・スミス（初代）にこの権能の鍵を保有する権利があることを明らかにしたまい、千八百三十三年十二月十八日ジョセフ（ヨセフ）・スミス（初代）は息子ジョセフ・スミス（二代）によって、この名誉ある職、すなわち初代「大祝福師」の職に按手聖任された。時に年六十九才であつた（『末日聖徒イエス・キリスト教会歴史』一六八頁「英文」、「救いの教義」第三卷一六三頁参照）。

二代の「大祝福師」はジョセフ（ヨセフ）・スミス（初代）の息子であり予言者ジョセフ・スミス（二代）の兄に当るハイラム・スミスで、彼は千八百四十一年一月二十四日（日曜日）、予言者ジョセフ・スミス（二代）によってこの職に按手聖任された。これと同時にハイラム・スミスは「神の王国の鍵」すなわちこの「時満ちたる神権時代」の権能の鍵を授けられた。「教義と聖約」にはこのことに関して次のように誌されている。

「こは、わが僕ハイラムの代りにして、わが僕ハイラム彼の父により祝福によりまた当然の権利によりて任命せられし祝福師

たる神権者の職に就かんためなり」。

「されば今後われ彼を任命して、わが僕ジョセフと同様にわが教会の予言者、聖見者、啓示を受ける者となす。こは彼がまたわが僕ジョセフと一致して働くためにして、かくてわが僕ジョセフの助言を受け、またジョセフは彼に諸々の鍵を示さん。この鍵によりて彼は願わばすなわち受けて、かつてわが僕なりしオリヴァ・カウドリに与えられたと同じ祝福と栄と誓と神権と神権の賜とをその頭に受けん」（『教義と聖約』百二十四〇九十一、九十四、九十五、「末日聖徒イエス・キリスト教会歴史」三〇八頁「英文」、「救いの教義」第三卷一六五頁参照）。

千八百四十四年六月二十七日、イリノイ州カーセージに於てハイラム・スミスが予言者ジョセフ・スミスと共に教義に殉じたとき、ハイラム・スミスの長男ジョン・スミスはわずかに十一才であつて、大祝福師の任に堪えなかつた。このときブリガム・ヤング長老は、ハイラムの兄弟のサミュエル・スミスが大祝福師の職をつぐ権利があると言つたがサミュエルは千八百四十四年ハイラムにつぎて間もなく世を去つた。

そこでハイラム・スミスのただ一人の弟であるウイリヤム・スミスは、ブリガム・ヤングその他の十二使徒会々員の言によつて、千八百四十五年の夏に大祝福師の職に按手聖任されたが、千八百四十五年の十月に催おされた大会に於て会衆は彼を支持しなかつた。従つてウイリヤム・スミスの名は歴代大祝福師の名前の中から除かれてゐる。

千八百四十九年一月一日、ジョセフ（ヨセフ）・スミス（初代）の弟で、予言者ジョセフ・スミス（二代）の叔父に当るジョン・スミスが大祝福師として按手聖任された。この間アセル・スミス（初代の大祝福師の兄弟）が大祝福師に聖任されていたという人もある。アセル・スミスは祝福師には聖任されていたが、大祝福師ではなかつた。

ジョン・スミスが千八百五十四年に亡くなると、大祝福師の職は再びハイラム・スミス家へかへつて、ハイラム・スミスの長男のジョン・スミスがこれをつぐこととなつた。時に年二十二の若冠であつたから、大管長ブリガム・ヤングは彼を大祝福師の職に按手聖任すると宣教師として派遣し

た。彼は千九百十一年に此世を去るまで五十六年以上この職に在った。

第五代の大祝福師はジョン・スミスの孫であり、ハイラム・スミスの曾孫に当るハイラム・ギップス・スミスであった。(「救いの教義」第三巻、一六二—一六九頁参照)。

四、祝福師の職と祝福

大祝福師は教会全体の祝福師であつて、全教会員に与える「祝福師の祝福」の鍵を保有し、教会のあらゆる地域に住む各会員の頭に祝福を「結び固める」権能をもっている。すなわちその各会員が福音の教えの中にある誓約を守り、救いを完うするに必要な儀式を受けるならば、第一の復活に出て来て「永遠の生命」を与えらるという祝福を「結び固める」権能をもつ。また祝福を受ける各会員にその血統を明らかにする権能の鍵も保有している。これは各会員がエフラムの裔であるとか、マナセの裔であるとか、或いはまたベンジャミンの裔であるとかと宣言することである。

すべて祝福師は、その祝福を受ける会員の血統を明らかにするために啓示を受ける権能をもっているが、その会員がエフラ

ムの族に属するとか、マナセの族に属するとかと言って、その会員を或る支族に属させる権能はもっていない。バプテスマを受け確認の式を経て教会員となった者は、アブラハムの裔として数えられ、福音の教えを忠実に守り行ふならば、アブラハムの子孫に与えられるすべての権利を所有するのである。

また祝福師の祝福は、その祝福を受ける者が人生に於てとるべき針路を指示する意図を以て与えられる。従つてその祝福は「啓示のみたま」によつて与えられ、これを受ける者が終りに至るまで変ることなく忠実であるならば、非常な慰さめとなりまた行動のもととなるにちがいない。

或る祝福師が祝福を与えたが血統を明らかにしなくても、これは「祝福師の祝福」である。この場合、祝福を受けた者はその祝福師のもとを訪れて自分の血統を知らせてもらふことができる。もしその祝福師が啓示を受けたなら、彼はその血統を明らかにしてさきの祝福につけ加えるであらう。

その祝福師が世を去つた場合には、別の祝福師がその部分だけ祝福につけ加えることができる。

カインの血統である人(黒人の血を引く人)も、真に悔い改めるならばバプテスマを受けて教会員となり祝福師の祝福を受けることができる。

大神権を保有し、福音の教えを忠実に守り行ふ父親は自分の子供たちに「祝福師としての祝福」を与えることができ、また靈感を受けたなら、その子供の血統(エフラムの裔とかマナセの裔とかいうこと)を宣言することもできる。その子供は、按手聖任された祝福師から更に祝福を受けてもさしつかえない。

祝福師の祝福は神聖なものであるから、公開をする性質のものでなく、また団体で受けるものでもない。祝福師の祝福を受ける会員は、一人一人祝福師のもとを訪れるべきである。年齢に上限はないが、何のために祝福を与えられるかわからないほど幼い子供に受けさせるべきではない。少くとも十二才を越えた年齢であるべきであり、また教会員となつて一年以上経っていることが必要である(「救いの教義」第三巻、一六九—一七二頁参照)。

エライザ R. スノウ
元氣よく ♩ = 88

mf



新しい讃美歌によせて

新らしい讃美歌に想う

柳田 聰子

「すべて心の歌はわれの喜びなり。然り、義しき者の歌はわれに對する祈りなり。彼らの頭に祝福を与えてその応えとなさん。」

このエマ・スミス姉妹にあたえられた主の御言葉は私にとつても本當に有難い嬉しい御言葉です。私にとつて、歌を歌うことは上手下手を度外視して、全く大きな慰めであり喜びなのです。病床に苦しみ時でも歌の本を数多く枕辺において片っぱしから歌っていますと、私にとつては一番楽しい時となるのです。

歌うことのお好きなベギー・マース姉妹が名古屋で働かれた折、最初の MIA 歌集(薄い本)を作るお手伝いをしたのがきっかけとなり、ハリス姉妹と御一緒に「子らは歌う」を出版し、楽譜の印刷、楽譜に歌詞をつけて新しい版を作る印刷については、無知であつた私に對しての主の大

きなお恵みであり、後に備えられた御計画に対してよいウオーミング・アップをさせて頂いたのだと思われまして深く感謝しております。

伝道部長さんとランドバーク長老が名古屋においてになりました時、アメリカのMIAのレクリエーション歌集を見せてくださいまして、「これを翻譯して日本でも使ったらいいと思うから、あなたがその仕事をやってくれないか」と申されました。私はその責任の大きいこと、自分の非力であることに不安を感じておりましたが、また、好きな歌のお仕事ですし、少しでも何らかのお役に立つならと思ひましてやらせて頂いたわけです。言葉の多く入っている英語の歌と、多くを入れられない日本語の歌について、楽譜が同じであるということはいろいろな制約を受けるわけですが、できるだけ原文に忠実に、また作曲者の気持ちにも合わせて原語の歌のリズムに言葉がのるように気を配ったつもりです。そして、それやりながら私は教会で歌われている讃美歌の言葉が余りにも明治時代的であることを残念に感じておりました。中には曲のリズムと日本語のリズムが合っていないために歌っているだけでは意味がわからず、歌詞を読んでみて漸く讃美歌のもつ素晴らしい意味を理解するというのが少くないようでした。

昔、その本ができる前は翻譯の言葉が原曲に合わないで別の曲にしてその讃美歌を歌っていたのを、やっと当時の伝道部長さんはじめ、父たちがその曲で歌えるように訳し直したのだそうで、それが長い間役に立って来たわけですが、やはり五十年近くも年月を経た今日では、日本語も変ってしまっただけ解り難い歌となったのだと思います。そのような事を考えて、また宣教師の方々の持っていらっ

しゃる英語の讃美歌の中には、日本で使われている本にはないもので良いものが沢山あるのを拝見しまして、讃美歌を新しく作り直して使いたいという念願が心に浮んでおりました。いつの日それが実現されるか、私がこの世に生きている内にそのような本を手にするかしらと考えておりました。

ところが思いがけなく早く、しかも私たちの処に、「讃美歌の手持ちがなくなったから、再版しないで新しいものを出したい。ついてはこの仕事をやって欲しい」という伝道部長さんのお言葉を頂き、私のひそかなる念願が自分への試練のような形となって表われて来たことにびっくりいたしました。けれども主の御計画は遠大で、それまでに少しでも楽譜の出版について知らされてあったことを、正に奇しき御業を見る思いで感謝してそのお仕事を頂きました。古い本にある歌詞を解り易く直すとしても、訳詞から改作しては原文と変ってしまうと恐れしたので、すべて原文を見て新にやり直すことにいたしました。一つ一つ歌ってみて、メロディーのアクセントと、日本語のアクセントが、また、リズムの切れ目と日本語の切れ目等ができるだけあうように、しかも作詞者の表現方式がそのまま伝えられるように、それが日本語的表現方式でないとしても、作詞者の気持ちを汲むために、理解され得る限りできるだけ原作者に従うことを一つの方針といたしました。英語の新しい讃美歌の本からどれを選ぶかは、父と相談してアメリカにおいてより多くの人々に歌われ好まれている歌がどれか、音楽好きのフォーサイト長老はじめ数人の宣教師に伺って、それをもとにして選びました。このお仕事をするために、時間的に非常に余裕のない生活をしたが、主婦である私が無事にそれを果させて頂けましたのは、家

族全員の愛と理解があったからで、そのように天のお父様がお取り計らい下さいましたことと確信し、心から天のお父様と、また家族の者たちに感謝しております。伝道部長さんやアンドラス姉妹にも一方ならぬお世話様になり深く感謝しております、三省堂の和田さんにも名古屋まで来て頂いたりしていろいろお世話になりましたが、校正を随分気をつけてやったつもりでも数カ所にまだ間違いがありますことを歌われるすべての方々にお詫びいたします。幸に再版される時がまいりましたら是非訂正したいと存じております。

昨年暮のクリスマスに新しい本を手にした時、胸がしめつけられるような切ない思いで、「何卒この本が日本の伝道に少しでも役に立ちますように、この讃美歌が人々の慰めと励ましのお役に少しでも立ちますように」とお祈りしました。その祈りは今も私の胸に燃えております。皆様にお詫びしなければならぬ点が多いとしても、何卒この本を御役に立てて下さいませ。

新しい讃美歌を歌いましょう

高 木 富 五 郎

(一)
末日聖徒の讃美歌は歌詞が旧式で現在の若人には感覚のズレがあるから、現代的な言葉に改訳したらい、という世論はよほど以前から聞かされていた。モルモン経が口語体に改訳されたのだから、讃美歌もこれにマッチするものにした、との要望は誰にも思いたることであつた。

かねてからこの世論に答える計画はアンドラス伝道部長の胸に準備されてあつたがその機会をねらっておられたようだ。それが端なくも私が急に名古屋へ隠退することに決定したとき、伝道部長から「名古屋へ転住するなら讃美歌の改訳をやってもらいたい。旧讃美歌もアイビンス伝道部長を援けて翻訳したこともあるし、柳田姉妹も、教会の歌を、翻訳するに協力した経験者だから、二人で協力して実現して欲しい」

とのお話があつたので、快よく承諾して名古屋へ来ると、柳田姉妹と二人でほとんど毎日数時間をこのために話合つて、新しい歌詞の撰択、古い分から取除くものなど、すべて伝道部長の指導をうけながら、満一カ年余りをついやして昨年末までに印刷に廻し、今年の一月から使用できるように、予定通り取り運ぶことができたのが、この新しい「讃美歌」(末日聖徒イエス・キリスト教会)です。

(二)
讃美歌というものは我がキリストの教会にあつては一日もかくこののできない「心の糧」なんです。神に感謝し、神をほめたたえ、神に祈るとき、また福音をまなび、隣り人と語るとき、いつも聖靈の導きに、素直な心を調整するものは讃美歌です。私たちが声高らかに讃美歌を歌うとき、自分が独りでうたうときでも、他の人たちと斉唱するときでも、そのうた声が必ず自分の心に恵みと導きの糧を与えてくれることを強く感銘されることでしょう。

最初私が讃美歌の改編にお伝えしたのが一九一五年の夏でした。アイビンス伝道部長と二人で牛込薬王寺町に在った伝道本部の一室で毎日ひたひたを集めて仕事をしましたが、若い伝道部長(二十才代でした)は馬力が強くて休息しようなどとは申さず五時間ぐらい続

けてやります。私も夏季休暇で学校がないので大いに意地張ってや
ったものです。そして疲れると二人で鎌倉の円覚寺へ出かけて参禅
をしたり、池上本門寺で日蓮の旧跡を調べたりしたものです。その
頃アイビンス伝道部長は、仏教研究に熱心でしたから私も同行する
ことが多かったのです。

(二)

いつの場合でも讃美歌の改編は国語の変遷にしげきされて行われ
ますが、わが教会の「末日聖徒讃美歌」もその例外でなく、新らし
い世代の人たちには古い歌詞の意味が理解できないという苦情が出
て、その結果改編となるのですが、今回の改編も前回(一九二五年)
の改編も理由は全く同じでした。それで改訳された結果を旧、前、
新の三様の歌詞を比較して見ることにしましょう。言語が時代をつ
くっている証明ともなり、時代がいがに言語を制御しているのが実
態を見る気がします。

次の一節は「開拓の讃美歌」ですが、ナーヴー市から西の旅に出
た聖徒たちはウィンター・クオータスで六百八人の病死者を出して
苦難の真最中であつたが、なほも恐れず大いに働けと告げられ、ロ
ッキーへの旅をつづけた讃美歌です。(Come, Come, Ye Jesus)の第
四節に――

(旧・第五十四)

たとへわが旅をはらで逝くも

さひはいなり、いともよしや

われらうれひをのがれぞ出でて

正しきもの共に住まはん

若しまたわれらはながらへて

聖徒のやすらひ得んを見ば
この折り返しぞいかならん

善きかな、いとも善きかな。

(前・第八十二)

旅はをはらで逝くもよし幸なり

吾らうれひをのがれ清きと住まむ

もし又ながらへやすらふ聖徒見ば

いかに歌ふらむ善しいと善し。

(新・第三)

旅を終らず死すもすべては善し、

なやみを離れゆきて正義と住まん

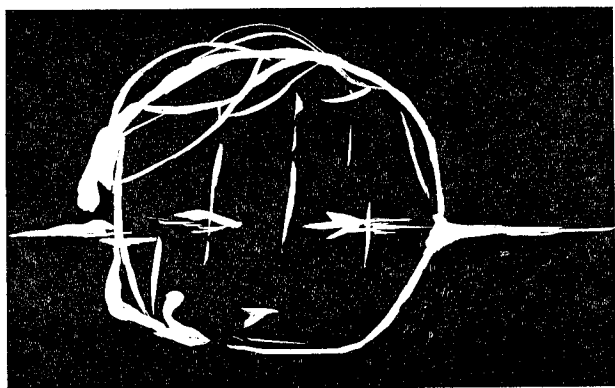
もし生きて休む聖徒らを見れば

歌声広がらんすべては善し。

とあるのを並べて見ると今更ながら時代の流れと言葉の変遷がなる
ほどとうなずかれるものがあります。

(四)

とにかく新しい讃美歌ができたのです。末日聖徒が一樣に
声を合わせてこの讃美歌を歌うことによって、主のみこころをた
える時が日本全国に光来することを心から念じてやみません。(名
古屋支部にて)



幸福の中の苦痛

立野嘉久 (群馬支部)

幸福とは何か？ギリシャの大哲学者であるアリストテレスは、幸福には三種類あると言った。第一に境遇上の幸福で、地位、財産、名譽、評判等に基づく幸福。第二に肉体上の幸福で健康美貌等に基づく幸福、即ち主観的幸福である。前二者は客観的幸福である。これらの中で最も直接的であり根本的であるのは第三の精神的、すなわち主観的幸福である。自分自身の内部から湧き出して来る幸福に比べれば、境遇や肉体に基づく幸福は、甚だ微弱な間接的なものである。だから同一の地位、同一の財産、同一の健康状態の人でも、その主観的状态、すなわち精神の相異によって、幸福の程度は非常に違う。我々同

一人の間でも客観的には何の変化も無いに拘わらず、日により時によって、非常に生きている時と、何となく憂うつになる時とある。それは精神の持ち方一つで、どうにでもなる。

すなわち、人間の精神の持ち方が、幸福の決定的条件であり、物財や地位や名誉や健康は二次的なものに過ぎない。この世の中は幸福に生きるのも不幸に生きるのも、各自の考え方、見よう取りよう次第である。精神のできた人には、この世の中は誠に美しい、豊富な所であり、精神のできてない平凡な人間には空虚な貧弱なつまらない所である。心の決活な人にはこの世の中は喜劇の舞台であり、陰うつな人には悲劇の舞台である。

ではこの幸福はどうして得られるだろうか？人生と登山について考えてみよう。人生は登山と同じである。つまり登山というものは、登る時が骨が折れて苦痛であるが、しかしその苦痛の中に、本当の山の愉快さがある。下る時は非常に楽な代りに、そこには何の面白味もない。人生また然り。人生は骨を折り、苦痛に堪えて向上進歩していく所に本当の人生としての愉快さ、面白さがあるのである。苦しい所に人間の人間らしい味があるのである。

もし人間がエデンの園のような楽園にいて、食べたい、飲みたい放題で、何でも自分の思う通りになるのであったならば、それは決して幸福ではないと思う。私たちが現に

苦痛を体験しているからこそ、エデンの園の愉快さ、楽しさが解るのである。もし生れてから一度も苦痛の体験が無かったならば、いかなる天国いかなる楽園に連れていかれても、少しも愉快さも楽しさも解らないのである。谷あればこそ山があるのであって、谷が無ければ山もない筈でだから人間は苦痛を味えば味う程、幸福を得ることができる。苦痛を味うことの少い人程、幸福もまた少い。世の中には「幸福」という「物体」がある訳でなく、幸福はただ『感じ』に過ぎない。すなわち、幸福は『物財』の中に求められるのではなく、『苦痛』の中に存在するのである。

ゆえに苦痛に向ってドンドン突進し、どんな苦痛がやって来ても、ビクともしない。苦痛に向って真正面からぶつかっていく、という勇気のある積極的な人が本当の幸福なのである。一切の苦痛を避けるように考え、ただ我がままに、楽に暮したいと考えている人は、幸福の最も少い人である。我々の運命に苦痛を授けられた事は、幸福の前提条件を与えられた事だと思って、大いに感謝し、勇気を出し、振い立つべきであると思う。苦痛に威圧されて、死の道を選ぶことが人生問題の解決だと考えるのは卑怯極まりない方法である。苦痛こそ人間を幸福にする最良の手段である。我々はこの苦痛を大歓迎しようではないか！

“Pleasures in Pains!”

(学生・二十一才)

二人の女子大学生が寄宿舎に住んでいた。その兄さんが猫に行ってとつて来た小さな毛のふさふさしたやまねこの子を妹に与えたので彼女たちは、それを自分たちのペットとして大変可愛がった。そして大事にしてそれを育てた。それは間もなく家族の一員となった。けれども毎日あまり接近して生活しているとそこにおこっている変化に気がつかない。このお嬢さんたちは、この可愛いやまねこが時がたつにつれてどんどん成長しているのに気がつかなかった。

ある夜その一人のお嬢さんが宿舎に帰って一人ぼっちでいた時、その成長したやまねこは性来のもうさぎを發揮してそのお嬢さんにとびかかった。顔を引つかかれ、傷ついたお嬢さんは、悲鳴をおげて電話を呼び、かけつけた近所の警察官が危くお嬢さんをかみ殺そうとしたやまねこを射ち殺してお嬢さんを救い出したのであった。

このお嬢さんたちがよく注意していたら、このような、あやまちをおかさなかったであろう。けれども皆さんはこれと同じようなあやまちをおかしやすい。このお嬢さんたちはこのやまねこがまだ子ねことして家族の一員となった時は、その危いどうもう性を予期することはできなかった。けれども彼女たちはそのやまねこが日々成長して変化しているのに気がつかなかった。

このやまねこが顔にとびかかった時もこのお嬢さんは、まだ可愛い子ねこと思つて自分の本の上のせて歩いていたのであった。いつまでも可愛い子ねこと思つてその中に成長している性来のもうもう性を見過したのであった。そしてとびつかれた時は、すでに遅すぎたのである。けれどもこのお嬢さんたちだけがこのような変化の再評価に失敗しているのではない。彼女らだけがこのやまねこの悲劇に相遇しているのではない。多くの人が可愛い子ねこと思つて遊んでいるが後になって、それが性来のど

猫

十二使徒会補助

スターリング・W・ミル

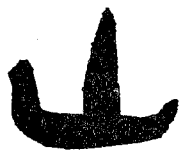
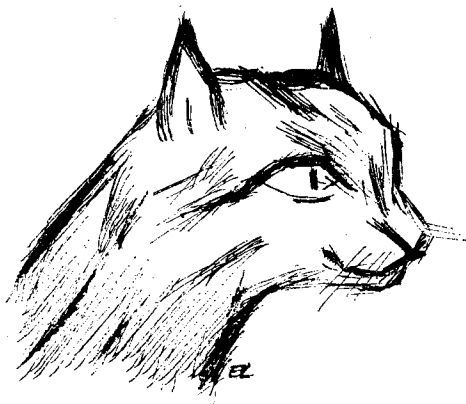
うもう性をもった山ねこであったことに気がつくのである。

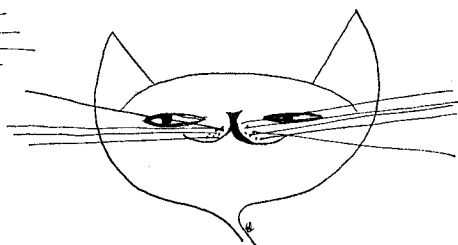
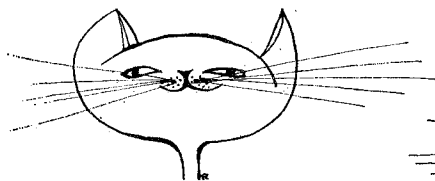
最近の映画で、あへんのちゅう毒者のことを、**肩にのせた猿**、と言っているがそれはまもなく恐るべきゴリラに成長する猿である。まずい薬常用者たちはその肩にのせたものがジャングルからとび出して来て彼らにおそひかかるいかなるものにもまして恐ろしいものであることに気がつかないでいるのである。

人が最初に悪にそまる時、彼はほんのささいな悪習慣を見るだけである。けれどもその悪習慣はこのやまねこと同じように、よく見えないけれど性来のどうもう性をもっているのである。どちらも見逃すことのできない、成長力を持っているのである。毎日少しづつ成長しているうちにやがてその悪習はその主人をひき裂いてしまうところのものすごい、爪となってしまうのである。

先日、私は明日泣くであろう、と言う本が出版された。その中でリリアン・ロスは彼女の生涯の物語りを告げているロス嬢は、やまねこを抱いた評判の金持ちな女優であった。はからずも彼女の許婚者が死んだ時、彼女は失望落胆した。彼女は何週間も悩み苦しんだ彼女の看護婦は彼女が床につく前によく眠れるように一ぱいのブランディを呑むようにすすめた。その夜彼女はブランディを飲んだので数週間ぶり始めてよく眠れたのであった。彼女はブランディのおかげでよく休まれたので大変喜んで次の日もまた飲んだがべつに変ったことも感じなかった。

その後ある人がロス嬢に中毒になるからこの悪癖を止めるようにすすめた。彼らは彼女がこのやまねこにかみつかれてしまわないように警告したのであった。けれども彼女は、どんなことがあっても決して溺れてしまうようなことはない自信をもって答えた。けれども間もなく彼女の耳にこの無情な野獣の不吉なうなり声が聞え始めたのであった。そこで彼女は始





めて自分が抱いているのはもう、毛のふさふさした可愛い子ねこではないことに気がついたのであった。彼女はすでにどうもうな人殺しの本性を持った野獣のとりこになっていたのであった。彼女は驚いてそれから逃れようとしたがすでに深入りしたそのきづなを断ち切ることはできなかったのである。かつて彼女がやまねをとらえたのであったが今やそのやまねこにとらえられてしまったのである。彼女の叫び声に答えて援けに来る親切なおまわりさんいなかった。彼女は今や自分自身の意志さえ失って無援の状態に陥ったのである。

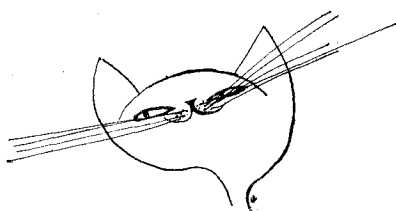
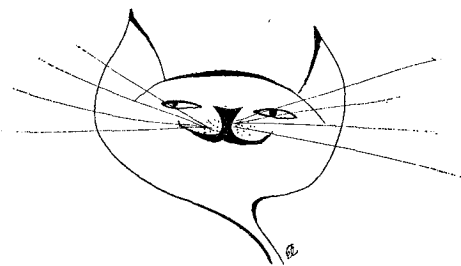
その後数年間の悪夢が続いた。彼女は結婚したが何度も離縁した。彼女の撮映契約は取消された。彼女は財産も名声も、何もかも失い、自分自身に対する自尊心すら失ってしまったのであった。

彼女は自ら好んでしたわけではなかったが肉体的に社会的に道徳的にまた財政的に自らを殆ど滅亡の状態に陥れてしまったのであった。

けれどもこのアルコールだけが、やまねこではないのである。その他多くの種類がある。それらはいろいろな形や色や大きさを持つて来るのである。喫煙、賭博、うそつき、短気など、みなやまねこである。不貞潔は最も悪質なやまねこである。こんなのものを少しでも容れればわれわれのもっているすべてのものは取上げられ奴隷にさせられてしまうのである。われわれにともすると自己を過信して、この成長する恐るべき危険に、気がつかないものである。

よく人は、私は楽観主義だ、と言って自慢するが先週私はそのような能力を失った四十五才の一婦人に逢ったが彼女は三人の子供を持ち修士の位を持った未亡人であったが自殺未遂をおかしたのであった。数年前から彼女は否定的な考えを持つようになった。そしてそれが悲観的な気持ちに成長して行った。そして彼女は長い憂うつ病にとりつかれてしまったのであった。そして彼女はこやまねこである憂うつ病を追払ってもらおうとして精神病院に少からぬお金を支払ったのであった。けれども遅々としてその効能は現れなかったのである。彼女はもし次の自殺が成功したら残された小さな子供たちがどうなるであろうかと言うことを気がつかないでもなかった。また憂うつしうのために永久に発狂してしまつたらどんな結果になるであろうかを考えないわけでもなかった。けれども彼女はすでに自分の好むように、その考えを押し進めて行く能力を失ってしまつていたのである。

イタリヤの詩人ダンテが地獄旅行の想像を描いた時、彼はよくわれわれにあてはめられる状態について述べた。一団の地獄の居住者たちが長い間、悪いことばかりしていたので他のことは何も出来



なくなつてしまつた。彼らはダンテに言つた。「我々の眼は地上のことにばかり向けられ、決して天上に向けられなかつたので裁き主はこれを地に結びつけてしまつた。そして貪欲な心が善に對する愛をも滅ぼしてしまつたので我々の働らきも空しく、今や裁き主によってこの地獄に縛りつけられてしまつたのである。この不幸な地獄の囚人たちは、今や逃れることの出来なくなつた地獄に適合してゐたから、入れられたのである。地獄はそれに適合する人に備えられた場所である。」

われわれはわれわれを管理する人たちの欠点を見つけようとする態度をとつたり不当な批判をしたる時はわれわれを滅亡に導くやまねこを養つてゐるのである。われわれは彼らのわれわれに對する援助すらも破壊してしまふのである。他の悪い習慣と同様に、これも最初は無害のように見える。けれども、もしわれわれがそれを続けるなら、その習慣は成長して問もなく、どうもうな、やまねことなり、われわれの祝福を奪ひ去つて、背教と墮落に陥らせてしまふのである。

われわれが指導者となることも、或やまねこの子の母体となり得るのである。一九二六年に私はかつて見たこともないような傑出した將來性のある教会の指導者を知つてゐた。けれども彼は事業に成功すると、自分のことしか考えないやうになつてしまつた。彼は愚かにも、その一時的な成功を過信してしまつたのである。彼は教会の義務を怠けてしまつたのである。そして献金を減らし、その反面、自分の権限を勝手に拡大した。彼は少しえらくなつたことにつまずいてしまつたのである。彼は立派な心の持主であり善良な人格者で素晴らしい教育をも受けていたが、悪いやりがなくなつてしまつたのである。もしも他の人が過ちをおかすと彼は非常に短い手綱でひっぱつた。

どう言う結果になつて行くのかをも知らず彼は急速に成長するやまねこの子を手もとに飼つてゐたのである。その一つは世俗的なことであつたり、また慢心、短氣、批判、不寛容などである。そして彼は日夜それらにおぼれてそれを強めて行つたのである。そして數年後に彼はリリヤン・ロスと同様の経験をしたのであつた。彼は教会を去つたばかりでなく、その始末におえぬ態度は雇主に對する信用をも失つて、もう誰からも信頼されなくなつてしまつたのである。彼はその富を失ひ、立派な人となりも失われて、熱意も大望も消失し、精神的な面影もなくなり、大部分の友人をも失つてしまつたのであつた。彼のかつての人となりまた將來を期待されたその人となりは破壊的な野獸に致命的に引き裂かれてしまつたのであつた。この野獸は成長すると、どうもうさを發揮して飼主にとびかかつたのである。

ここにまた異つたやまねがいる。怠情、無視、不忠実がそれである。私が思うに、終局においてユダを滅した恐るべき罪は、その始めは容易に処置出来た小さなものに過ぎなかったのである。ペネジクト・アールドをしてその祖国を裏切らせたのも、小さな無害な子ねこから始まったのである。やまねこは、人を差別しない。若い時に、神の心を持った人と言われたダビデ王は、彼を二つの致命的な罪に陥れた、悪い思いに身を任せたのであった。

ソロモン王もやまねこを育てた。彼は末だから誰にも受けたことのなほどの大いなる知恵を祝福された。彼は二度神にまみえた。けれども彼は不従順という小さなやまねこを飼育した。彼は不忠実にも主の誠命にそむいて結婚した。このようにソロモンの心が転じて、イスラエルの神、主を離れたため、主は彼を怒られた。(列王紀上十一・九)

ソロモンはその王国を失い、支配力を奪われ神を見失った。彼は偶像礼拝者として死んだ。彼の全智を以てしても、その思いの背後に成長している、やまねこの重大さを理解出来ず、またその神に対する態度の除々に変化しているのを改めようとしなかったのである。

アレクサンダーポップは次のようにわれわれを警告している。

・悪はいやな怪物である。けれどもそれが現れ、しばしば現れるようになるとそれに見なれてくる、始めはがまんしているが、後にそれを受け入れ遂にそのとりこになってしまうのである。(一七三二年十一月、人に就ての論文)

私が伝道している時仕えてくれた一人の宣教師は偉大な精神力を持った人であった。彼は家に帰るとその職業にやまねこを飼ったのである。彼は医師を実施して教会活動の不活潑になったことの申訳

とした。そして彼は次第に誠命を破る機会を多くし若くして死んだが、その頃には完全に教会から離れてしまっていたのである。彼が悪い道に下り始めた時、恐るべき死に到達するつもりは毛頭なかったのである。ただその子ねこが小さく柔かで何等の危害も加えなかったからであるが、今となっては、それが小さいと言うことは出来ず更に明日それが危害を加えないと言うことは出来ないのである。

われわれの個人的な生活および指導者としての活動の内に存在するこのやまねこをどうするかと言うことが今日のわれわれの問題である。一弁護士は、そのお得意さんたちに、いつでも呼出に応じられるように事態を検討再評価しておくようにとすすめているが、これは精神的なことに於いて特にそうである。確かにわれわれは常に今日迄のわれわれの信仰状態および指導精神を再評価すべきである。そうして始めてわれわれはわれわれの心の中で成長するかも知れない若いやまねこをいかに処置すべきか効果的な決断を下すことが出来るのである。われわれの子ねこは前述したのとその大きさと、形や色が違っているかも知れない。けれどもやまねこに相違ないのである。われわれはその破壊性を充分に自覚せねばならない。

われわれの多くの問題が、悪を軽視することから生ずる。われわれの内最も弱い者でさへ、よくどんな事態にても対処出来ると感じている。そこでわれわれは自己を過る自己過信に陥るのである。われわれの殆どがわれわれの内にもしその存続を許すなら速かにわれわれの信仰を滅してしまうであろう悪に対し、充分に警戒していない。レッド・ヘノファンスの次の言葉は知恵あるさとしてである。

・私は悪を行わないように努める為世界中で最大な臆病者である。もしもわれわれが正直にこのように感じていたらわれわれはやまねこ問題をよく解決することが出来るであろう。

紀元節問題と正しき先祖探求

渡部正雄

日本人または日系二世の会員で祝福師の祝福を受けた者の多くがマナセかエフライムの血統であることを証明されていくことにより、私たちは私たちの先祖もイスラエルより分れたものであることを知るのである。

戦前、国粹の鼓吹を建国精神の高揚に結びつけて、記紀の神話に立脚した日本歴史を教えられたのであるが、その日本古代史が如何にあいまいなものであるかは戦後、学問の自由が確保されるとともに、考古学的立場から、又正しい史実を伝える外国文献等により再検討され、史学者、人類学者、言語学者などによつて、正しい日本の歴史

の研究が着々と進められているのである。

聖書考古学界の史蹟発掘により聖書が裏付けされつつある今日、一アラビヤの童児が発見せる死海の書は現代のキリスト教界に一大センセーションを巻起したが、これと同様に戦後、村から村に自転車を駆つて、ボン煎餅を売りながら遺跡踏査を続けていた一青年、相沢忠洋氏が群馬県桐生市外岩宿の赤土の崖で採集した石器は、日本の旧石器時代研究に画期的な役割を果たした。但し両者の相違点は前者が聖文の発掘により聖典が考古学により裏付けされつつあるのに対し後者は石器の

発見により記紀の神話が考古学により再検討されつつあることである。モルモン經典が今日アメリカ考古学界の努力により漸次証明されつつあるのも前者の場合に相当するであろう。

今日紀元節問題がやかましく論議されているが、神武天皇が大和を平定し橿原宮に即位した日を紀元前六六〇年の辛酉の年の元旦としたのは養老四年（七二〇年）に作られた日本書紀であり紀元節が制定されたのは明治六年三月七日の大政官布告によつてでありその日が二月十一日と定められたのは同じく明治六年十月十四日の大政官布告によるのである。

古事記、日本書紀の資料の中で、もっとも重要なのは、帝紀（皇室系図）と旧辞（神話や、神武以後の歴代の事跡、物語）であつて古事記の序文を読むとこの帝紀と旧辞とは、天武天皇の時、国史の編集が始まつた時にはすで

にまちまちの異本もでき上つていたのである。これが文字に書かれ書物となる以前には口に伝えられ、光帝の殯宮（死体安置所）のごとき儀礼の場で代々伝え来たつたものであらうと推測された。帝紀の性質が以上のごとくすると、旧辞に書かれていた歴代の出来事まして、その出来事の順序などを、そのまま事実と見たてることが、とても困難であるとしなければならぬのである。けれども我々が既に系図の教科書で学んだハワイの伝説の例に見る如く、各民族の神話伝説なるものが全々架空のものであつてその民族の史実に結びついていないと言うことは出来ない。

古事記は歴史的に信ぴょう性のない伝説であるというのが今日の学界での通説になつているが、これらの見方と反対に「日本の民族誌ではないが信頼性のある立派な大和朝廷史だ」という

のが「大和民族はコーカサス出だ」と主張する言語学者莊司氏の説である。

同氏の研究によれば日本列島に大和朝廷が渡つて来たのは応神天皇の時、それまで大和朝廷は大陸各地を転々としていたといい、同氏の意を取りまとめると次の通りだ。

中国の北辺、天山山脈の最高峰カンチングリ山（七四三九米）のふもとには、イラン系のサルト人とクラマ人が住んでおり付近を流れるカシ川に沿つた原には、タランチ人が現在でも農耕にいそしんでいるが、この地方の要所になるヤマトが神武天皇の即位した土地だ。倭は即位した地名のヤマトであり白檣原（カシハラ）はカシ川の原のことで神武天皇の道案内をつとめたという猿田彦は、サルトヒコつまり、サルト人の男性がサルダヒコとなつたものである。タランチというのは中国語で

農耕者のことだというのが、これが日本語になつてタラチネとなり、古事記にある「タラチネの水穂の国」となり考古学的に見れば弥生文化の水稲栽培者のことで弥生文化の源泉は、この天山山脈方面ではないかと見られるのである。

同氏の研究による日本民族移動推定図は、その年代から言つても東方に足を向けたイスラエルの散乱に一致して来るのである。

我々が我々の系図を探求して正しく我々の先祖を追求める時、未だ世に知られてない素晴らしい、民族史が展開されるのではなからうか。カウリー使徒は一数年前本部の献堂式上次のように言われた。

。やがて日本のここあそこに神殿が建ち、日本人は世界の民の間にあつて義のしるしとなるであらう。

ヤンガー・ジェネレーション



夏と私

笹尾敦子

(札幌支部)

やがて暑い暑い夏がやって来る。太陽が一度に四つも五つも照り出したような夏は、北国に生れてそだった私には大の苦手だ。しかし昨年の夏は緑の美を発見し暑い夏をしのぎたのしむことをおぼえた。雨に洗われた緑にまざる色の美しさはあるまい。光に輝き風にさらさらと表裏する緑には生命力があふれいかにもさわやかである。夏休みに入って私は田舎に行った。ここは農業で生活を営む人が大部分で最低必要な人と設備をそなえた小さな農村である。山にかこまれた平地には川があり空や、つり橋、兩岸の山や草木を写して流れはおそく実ののどかな田舎の風景である。こうした情景を一つ一つとり上げていてはきりが無い。とうてい見たとウリを表現しつくせるものではない。

夕暮、父とさし向いの食事は息苦しく、手を休めればいつ破られるとも知れぬ全くの静けさ。早々に食事をきりあげ二人で散歩に出かける。ゲタがカランコロンと響くだけ。坂の上に立つと広い畑は、麦の緑とじゃがいもの緑との織合せである。白い小さな花をそえた

一角もある。何と言う静けさだろう。こうしてじっとしているとたつた二人だけの世界のような気がしてくる。ここに汗とほこりにまみれた労働があり、人の喜怒哀楽があり、子供の泣声があり……とは思われない。私がこんなおんきな気持ちになれるのは二、三週間の滞在者にすぎないからだろうか。しかしここに暮す父がやはり同じように景色に見入っているのである。父の姿を見て私はほっとした。自然の内でも特に植物を愛し、この静けさを楽しむ父に人間として信頼と親しみを感じたことと、このような私がおよそ非生産的で非建設的なんだと言うひけめがあったのだが父を見て生活の一面に自然に親しむことの必要性を感じたからだ。

自然の恐ろしさを知らないではない。自然の美、造型の美と美の発見はどこにもあるのになぜ自然に親しむことが必要なのだろうか。

見たり考えたりする対照が人間でないからと私は正直に答えたい。人と人との助け合いに成る生活だからお互は常に気持良く接したいと思うのだがつつい悲しみも怒も出てしまい、どうにもならないような追いつめられた気持ちになる。そんな時人から離れ、自然に親しむと、やっと我に帰り、私をすぐ行き詰

まらせる狭心と知恵のなさに腹立たしくなるのだが何とか客観的に自分を考える冷静をとりもどすことができるのである。やがて私の目は空をおおぐ。昼の空も夜の空も、晴れ渡った空も低く雲を垂れこめた空もはてしなく大きな世界を感じさせる。自分で自分のなぞをとくように人類は大小はともかく一つ一つなぞを解いて来た。しかし神から見て人類はいったいどこまで到達したのだろうか。ある日星が空一面に輝やく頃、この星の下にさまざまな人があり、信じられない程苦しい生活があり、それらすべてが神の子であると思ひめぐらしぞうとした。この広い世界に私と同じ人はなく、私を見極め高めてくれる人はやはり自分自身しかないことを思い、一生この夏のように自然に親しむことを忘れず冷静に自分を見極め一步一步と歩いて行こうと考えた

夏の思い出

村田陽子

(広島支所)

若い力が、いっぱいあふれている。夏を、これから迎えようとしている。その時に、夏の思い出。という題の中に、自分を、お

いてみますと、いろいろなことが、よみがえってきます。今の私にとってそのほとんど多くが、教会に、関係のあるものだということに気づかれます。二年いや、三年も前のことです。神様は、実に生きたまいモルモン經、聖書が、神様の御言葉であります、ということを知り得ました。私もまだほかのことはよく解らずおどししていた時でした。

今日は開拓者記念日ということで、近くのグランドでM・I・Aの会が開かれました。いつものM・I・Aとは違う。今日は何があるのだろうか、楽しみにしながら、美しい夕焼空のもとで、元氣よく讃美歌を歌いました。それから、一人の宣教師の姉妹を囲んで皆それぞれ、思い思いの所にしゃがみこんで、開拓者の人々のお話に聞き入りました。暴徒たちによって、美しい町ナブーを追い出されて歩んだ幾多の苦難の道。ただ神のみ知りましたもう地その地に向って、西へ西へと進んでいった人々の動かさる神への強い信仰。えんえんと続く幌馬車に突然襲い来るインデヤンの攻撃。それに対して聖徒を率いるブリガムヤングの『恐れるな』という言葉がずっと後ろの幌馬車にいた私のおばあさんの耳もとにまではつきりと、ひびいたのですよ』とその姉妹の証詞に満ちた声と、光った眼をみつめてい

ますと、私たちの心の中に、開拓者の人々への尊敬と、感謝の気持が、いっぱいにあふれてきました。夕風の暑さも、すっかり忘れて、聞きたいっていましたが、ふと気がついた時にはあたりはもうすっかり暗くなっていました。そのうちに薪が積みあげられ、火がともされ美味しいホットドッグをほぼぼと、ゲームに楽しい一時をすごしました。

美しく輝いている夏の星座に向って

苦を恐るな聖徒よ汝が道行け……と、一言一言その意味を確かめながら歌ったこの夜こそ、忘れることのできない夏の思い出であり、このことは、その後の私の生活に沢山の教訓と影響をあたえてくれました。

開拓者の人々の比較にならぬ苦難の中での、神への心からの強い信仰を思う時に、自分の苦しみなどふっとんでしまいどんなに勇気づけられたことでしょう。

ジョセフ・スミスを通して、末の日に回復されました真の教会が神様のお導きによって開拓者の人々によって、打建られましたということを感謝と共に、証詞し、私も小さき者ではありますが、それに従うにふさわしい者と、なれますよう努力したいという希望が、湧きあがってまいります。(二十四才無職)

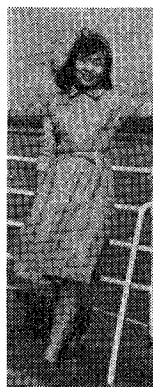
懐しい友へ

長谷川 和子

(南支部)

お元気ですか？

また、夏を迎えましたね。また今年も多くの人が海へ山へと行くことでしょう、町では色とりどりの服装で夏の太陽をあびていますこの夏の太陽の下、またこの空の下であなたはどこにどうして過しているのかしら？



私は夏になるとあなたと初めて会った時のことやあなたと初めて会った年の夏を思い出します。今年もまた私は思い出しました。

M・I・Aで楽しくダンスをしたり、ふざけ合ったことが次から次へと思い出されます。あなたを知ってから今年で三年目の夏を迎えるのです。一昨年の六月ごろあなたと初めて教会のM・I・Aで会ったんでしたね。あなたはとても人なつっこく私とすぐに友だちになりました。その年の七月の開拓者記念日覚えて

いますか。ダンスを何曲もおどりましたね。そしてホット・ドッグをあなたはぜひぶん食べましたね。私の分までそして食べるの恥しいと云って人のいない所について食べていたわね。私は今でもはつきり覚えています。

あなたはとても人気があったわ。多勢の人に好かれていたわね。だれ一人としてあなたを憎む人はいなかったわ。あなたは求道者として随分長く求道者生活を送っていましたね。一昨年の十二月ごろ急にバプテスマを今年中に受けたいと云って宣教師を困らせたあなたでした。そして宣教師がどうしてもだめだと云ったら、あなたはガッカリしたけども一生懸命勉強していましたね。

私はあなたがいやな顔をしているところを見たことがない。いつ会ってもあなたは笑顔で迎えてくれました。私がどんなに時間に遅れても、またいやなことがあってもあなたは笑顔顔を忘れなかった。

しかし今は教会のどこにいてもあなたの笑顔を見ることができません。とても悲しく思います。私が初めて教会に来て宣教師の次に名前を知ったのがあなたです、また教会に来て宣教師の次にお話をしたのがあなたでした。それからずっと私たちは良い友だちとして来ました。

一陣の涼風

アイモノ スドリ
四十物 渚鳥

(南支部)

今でも友だちです。もつとも親しい友だちですよ。今年に入ってあなたは卒業のために毎日がいがしく、またあまり丈夫でないあなたは病氣などをし、ますます教会に来る機会がなくなりました。そして卒業して会社に入ると会社で日曜も出勤しなくなつてはなりませんでした。

ついに教会にはぜんぜん来られなくなつてしまつたでしたね。しかしあなたがどんなに教会に来たがつてゐるかを知つています。しかしあなたはずつと来ていないので恥しい、また、日曜日はいかなれない、日曜日はかなければM・I・Aにも行かれない。あなたは日曜学校や聖餐会が夜にあつたらな——なんと考へてゐるのではないかしら。しかしM・I・Aにはこられるのですもの恥しがらずに來てください。あなたが教会を離れていても、知恵の言葉を守つてゐることを私は知つてゐます。あなたはまた遅くはない。努力すれば日曜学校、聖餐会にいつかはこられるようになるでしょう。M・I・Aに來てください。

そして夏の夜を楽しくダンスでもおどりましょうよ。あなたの姿が再びホールに見えて、あなたの笑顔が教会に満ることを待つてゐます。いつまでもあなたの友より。

七月十日

(十七才・学生)

或る人は言う。点は高さと幅と広さとを持たない。と教える。しかし現に点が存在するごとく人もまた存在している。人は点に過ぎない、と。しかし今、私はたとえ私が点にすぎないものだとしても私が私としてこの世に生まれ出たことを何よりも第一に素晴らしいことだと思つてゐる。この世に生を受けたこと、これは私にあたえられた一番最初の素晴らしい贈り物であつた。

そして私たちは皆誰一人として、同じ一つの目的のために送られて來なかつた者はいない。私が今ここにあるのは幸福を得んためであり、あなたが共にあるのは共に幸福を得んためである。

また言う、人間は人間であることのみよつて尊い、と。しかし考へてもみよう。人間、それはあまりにも気ままた動物である。

一体どの方向に走り出すか知れたものではない。その手綱を正しい御方におまかせして

私たちは共に一点を目指して真直に進もう。

○ 善意あること、誠意あること、これらは全て愛を前提として生まれる。愛は全てである。そして神は愛である。

それは私たち全ての人々に価なくしてあたえられたゆえに、全ての人々に価なくしてあたえなければならぬ。

○ この世にあつて、主によつて造られなかつた物は一つない。そして、全ては、主によつて管理されてゐる。私が幸福を得るための鍵をあたえられたのは勿論のこと、かつて私に働きかけ幸福を得たいという願いを心に抱かせてくださったのは、主、この御方の働きに他ならない。

○ 新しく生まれて、初めての夏を迎えようとしてゐる。すっかり乾き切つた地面は、慈雨を、二滴、三滴、五滴と素直に氣持良く吸収しよう。そして豊かに豊かに成長を續けて行く。

○ 主は実に生きたもう。

この事実はいくから先、人生のどんな酷暑の最中にあつても一陣の涼風として常に私の心を引き締め、新たな力をあたえてくれることを私は確信してゐる。

(二十才)

東京西支部訪問記

渡部正雄



「身はたとえ武蔵野野辺に朽ちるとも
とどめおかし大和魂」

と歌った吉田松陰も霊界で或は福音を受け入れて居るのではないかと思われるがこの雄大な武蔵野の一角に福音の殿堂、日曜学校が開設されたのは今から約三年半前である。

一九五七年末、東京西支部及び横浜支部が日本人支部長会を以て発足された時、当時まだアロン神権者であった田中、中村、秋元、三兄弟が抜てきされ支部長会を組織し、広々とした武蔵野平原に建つ労働会館を借りてスタートしたのであったが、うつそうたる森林をこだまして、この高原に吹きすさぶ風は末だに烈し過ぎるのか西支部は、その当初からいばらの道をたどっている。不幸にしてこの抜てき組の支部長会がくづれ去った時、伝道部長は、当時地方部評議員であった野口兄弟を召してこの重任に当らせたのであった。野口兄弟は日夜支部の為に努力、病を得て後も、痛む足をひきずって支部の問題で夜を徹して働らき明方の五時に帰宅されたこともあるとかその為、遂に再びベットより立ち上がれざる身となり、西支部の為に殉教されたのであった。

その後吉祥寺の駅近く武蔵野の面影を留め

る千坪の平地に日本で最初の新築教会堂が期待され、その重責を負つて、やはり地方部評議員であつた佐藤竜猪兄弟が支部長になられたのであつたが昨年秋、地方部長会が組織されるに及んで中央支部より、小室敏兄弟が支部長として赴任、まだ若く言葉も少ないが、よく会員求道者の世話をされ皆に慕われて居たが、二カ月以前に住居移転の為に、この職を去られ、今迄地方部長会の書記を務めていた福田真兄弟が新に支部長として任命され北支部より石川善次郎兄弟（第一副支部長）、中央支部より松島烈偉兄弟（第二副支部長）、書記として北支部より島田邦男兄弟、松浦孝康兄弟、何れも新進鋭鋭の士、若さと信仰と熱意に燃えた支部長会が、この京浜地区で、発足以来、いばらの道をたどり最もたちおくれた西支部興隆の重責を担つて発足したのである。

六月四日、第一日曜日の早朝、吉祥寺の駅を下りた私は、初夏の微風に入出をしのばせる井頭公園の高い樹立を横に見て千歳幼稚園に足を早めた、まだ八時を過ぎて間もないので一番乗りかなと思つて来ると早や松島兄弟が表に立つて元気な声で迎えてくれる、もう皆来ていますと言われて急いで入つて見ると

驚くなかれ、勢ぞろひの支部長会、今まさに始まらんとしている。この馬力ある新しい汽関車に早速、難問がぶつかつて来た。それは表参道への支部移転の問題だ、支部会員を愛し支部の発展を祈るこの若い指導者たちは、何とかして、この支部の本拠を離れない方法はないかと頭をひねる、午前九時引続いて始められた神権会でも支部の土地活用の問題が熱心に討議される。この神権会には何時もの通り鄭豊雄兄弟の顔が見える。今日はパプテスマを受ける喜びの中田さんの顔も見える。午前十時半、日曜学校会長鄭兄弟の司会で日曜学校が始められる。クラスは二つに分けられ、石川、松浦の両兄弟がそれぞれ福音のクラス及び系図のクラスを担当する、最近迄浅田兄弟高木姉妹が教えて居られたが特に浅田兄弟は長い間支部長会に在つて西支部の為に働いて来られた功労者だ、その他西支部では少数ではあるが熱心な姉妹たちがよく協力して強い信仰を以て困難な道を歩み続けて支部を守つて来ている、日曜学校から聖餐式にと二時間余りもこの幼稚園生の小さな椅子に座らせられているだけでも並大抵の苦勞でない。よくキリスト教には苦行はないと言われるが、この西支部だけは例外で、正に臥薪

嘗胆の列に連なるであらう、だから脱落して行つた多くの会員の中で現在残っている少数の兄弟姉妹はほんとに信仰の強者であり、主に喜ばれ何時の日か栄冠を与えられるであらう。

「最後迄堪え忍ぶ者は救われん」主は今もこう申して居れる。

西支部会員の忍耐はこの椅子ばかりでない。日曜学校が始まるや否や隣の殿堂、大教会から響いて来る物凄い音楽が曾て宣教師を通じてお願いしたのだがさっぱり効能がない。今日も勝又兄弟が二階に向けて大声で呼びかけたが依然として止まない、先方もこれが安息日の行事の一つであるらしい。この噪音の中で勉強に集中することは相当の努力を要する。この最悪の環境に在る西支部で信仰に堪える者は、何処へ行つても大丈夫だ。試練のふるいにかかれて残る者は少いがそれだけに、信仰も強くお互の親密さも深いようだ、そして支部内には教会独特の家族的なふんいきが充ち溢れている。今日は特に、ホルト長老を始め宣教師たちの顔は喜びに輝いている。金井さん夫妻と中田さんがパプテスマを受けられるからである。聖餐を前に福田支部長はこれ等の人を支部の家族の一員に迎え



るべく喜びの声をふるわせて皆さんの支持を求めた。引続いて三人から強い証を聞き、聖餐式後、庭園に出て大教会をもバックに入れて一同記念の写真を撮り、三時半からのバプテスマの儀式に出席すべく一同本部へ向ったのであった。金井さんは御夫妻ともミッションスクールを御卒業になって居られるので特にモルモン経に深い関心を持たれ又系図に対しても強い熱意を示された。そしてこの教会が末日に回復された完全な福音を持った教会であることの証を固められ、この晴のバプテスマの日を迎えることとなったのである、本年二月の或寒い日にヒートン長老たちが金井さんの隣家を訪問した処折悪しく留守であったので金井さんの奥さんが気の毒に思つて内でお休み下さいと暖炉を提供されたのが始めての面接で、この機縁でこの素晴らしい信仰の一家が誕生したのである。学校で既に福音を学ばれて居られた奥さんは、この頃、強く教会を求めて居られたそうである。この祈りに答えられた神様が二人の神の僕をお遣わしになったのであらう、今日この晴の日、宣教師や兄弟姉妹たちはさわやかな本部の庭で可愛い金井さんのお嬢さんを相手に心から楽しそうである、福田支部長の強い励ましの言葉

と感激の内に、この聖なる儀式はどこをりなく終つてめでたく三人の兄弟姉妹が誕生したのであった。

今日、この喜びの日を同じくして野口兄弟の御令息、真ちゃんも受ける予定であつたので私は聖餐式後、急いでお立寄りした。病床上に喘いで居られた野口兄弟が苦しい呼吸の中から、真ちゃんを見つめてよく「まこと、お父さんが元気になったらバプテスマをほどこしてあげるからね」と言つて居られたそうだが亡くなられる少し前には、バプテスマまで言つて口をつむんでしまわれたそうだ。

子をその道に従ひて教へよ、然らばその老いたる時も之を離れじ。

日一日とのびゆく真ちゃんの成長ぶりを、じつと霊界で見守つて居られる野口兄弟は真ちゃんの晴のバプテスマの日をどんなに待ち焦れて居られるであらう、そう思うと私たちもじつとして居られない。野口兄弟亡き後、野口姉妹はお子さんを抱えて生活の為に非常な苦心をされ、御自分が学校で教鞭をとられる傍ら二階を増築され、四人の学生さんを置かれて、どうやら生活の見透しをつけられ、やっと一息つかれた状態で、これから教会の方にもよく出て真ちゃんの準備をされ

たいとのこと、真ちゃんのバプテスマも夏休み迄延期となった。

父なる神の前と潔くして穢れなき信心は、孤児と寡婦とをその患難の時に見舞ひ、また自ら守りて世に汚されぬ是なり。

西支部の為に殉教された支部長野口兄弟の御遺族御一家の上に神の祝福のあらんことを、又若き信仰に燃えた支部長会によつて新しく発足した西支部の発展に神の御守りあらんことを切に祈りつつ筆を置きます。

創作劇

汚れなき剣

作 大塚昌治

登場人物

父 母

アンタイ

アンタイの婚約者

アンタイの弟

隣人の夫

隣人の妻

レーマン人の兵士隊長

兵士 A

兵士 B

とき
ところ

BC七十七年〜九十年頃
アメリカ大陸、レーマン
王国イシメル地方

今日、アメリカ中南米地方に残る古
代アメリカ文明の遺蹟が遠くに見え
る。

舞台中央に土が盛ってあり、熱心に
アンタイの弟が穴を深く掘っている。

父 弟 父 父 母 父 弟 父 母 父 弟 父 弟 父 母 父 弟 父

(父、上手より母と登場。穴をのぞき込む)

だいぶ深く掘れたな。

お父さん、もうこの位でいいのではないのですか。

そうだな、その位でよいだろう。

(弟、穴より上ってくる)

御苦労だったな。

(母、弟の土を落してやる)

アンタイはどうしたのです。

兄さんは、掘るのを嫌がつて手伝

いませんでした。

それはいけないな。

どうして、嫌なのかしら。

掘る事は別に嫌だという訳ではな

いでしょ、うけど――

武器を掘めるのが気に食わないと

いうのであろう。

そうなのです。お父さん。気付い

てたのですか。

(うなづく)

あの子是人殺しの道具をどうしよ

うというのでしょう。私達のアン

タイニーフアイ・リーハイ王とラ

モーナイ王の民は、王の進めには

父 弟 父 父 母 父 弟 父 母 父 弟 父 弟 父 母 父 弟 父

から賛成して全部地中深く埋めてしまおうとしているこの際に、あの子だけが私達と行動を共にできないのでしょうか。

みな私の不徳のいたす処だ。小さい時から勇者になる事のみ、たたき込んでしまったからな。誰よりも強くなれ、人をみたら敵と思えと教えて、毎日毎日敵を倒す事の訓練の連続だった。「剣を捨てよ」と今更云った処でおいそれと捨て切れぬかも知れぬ。

貴方だつて若い時は、おじい様からそのような躰を受けたのでしょ

う。

私の若い時は、特に戦争の多い時でな。厳しい訓練の連続だった。嘗つてはレーマン軍の中で最も強

かった貴方、剣を抱えて寝る時も

離れた事がなかった貴方でさえ、

その剣を地の中に埋めようとなさ

っているのですよ。あの子に出来

ないという方はありませんよ。

お母さん、兄さんはね、なにも戦

争が好きな訳ではないんですよ。

僕が小さい時、お父さんの教育の事を、よくこぼしていましたからね。でも兄さんは——何んて云うのかな、そう、正義感で云うんですかね。すぐカーッときてしまうのですね。

これこれお前もカーッとしない方でもないよ。人の事は云えないのではないかな。

いけねえ。つい生意気な事を云ってしまつて。

お父さん、そろそろ家の武器を運び始める方がよくはないですか。

そうだな。早いとこ終らせようかお前、お隣りに用意ができた事を知らせて来てくれないかな。

はい。

(下手急いで退場)

それにしてもアンタイはどこに行つてしまつたかな。

あの子のところではないかしら。

そうかもしれないな。どっちにしろ一度はかえつて来るだろう。

(父と母、上手退場)

(下手よりアンタイとその婚約者

婚約者

登場。アンタイ腰に剣をつけている。見るからに逞しい青年) あら、ここがお宅の武器を埋めるところね。

アンタイ

(気が重そうに) うん。

婚約者

貴方が掘つたのでしょう。

アンタイ

いや、弟だ。

婚約者

お兄さん振つて、みな弟さんに労働をさせるのでよう。

アンタイ

(弁解するように) そうではないんだ。僕は——。実はね、

婚約者

どうしたの。さっきから変ね。家に「いよいよ戦争が始まるから僕の家に来て頂き度い」と云つて、私を迎えにたときから貴方元気が

婚約者

なくつてよ。今度の戦争は絶対に戦うことは止めましょう。例え殺されても、決して憎みっこなし、

アンタイ

むしろ神様を讃美して死んで行き

婚約者

ましようとか皆で決心して、お互にその事を励まし合っているのに、

アンタイ

元気のない顔を見せるのは貴方の信仰を疑われてよ。

アンタイ

(怒つたように) 疑われてもいいさ。

婚約者

(びっくりして) 何んてことを云うの。

アンタイ

(怒つた身ぶり) 僕は今度の事は、とつてもがまんがならないんだよ。だってそうだろう、僕たちがニーファイ人宣教師のアンモン様や、アロン様の教えを受けて改宗した。唯、それだけの理由なの

だよ。それだけの理由でどうして殺されなければならないんだ。今度の戦争は僕らの方が何もしないのに、奴らが勝手に攻めて来るのだぜ。数年前迄は仲間だった連中

だっているのだ。

昔の仲間が攻めて来る。そうなん

でよう。

そうだ。何ら怨みを受ける理由の

ない連中になだ。

それなら尚更戦えないではないの

しかし、これは要するに売られた

喧嘩だ。個人だって正当防衛とい

う事がある。今度の戦争だって僕

たちは僕たちの生命と財産と自由

を守る権利がある。だから、戦か

つたつて悪いという事は絶対に無

い。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

婚約者

いのだ。
(父と母、上手より武器を抱えて登場するが、二人は気付かぬままに会話を続ける)

悪いとか、良いとかという事でなく、私達レーマン人は今迄悪い事ばかりして来たでしよう。その罪を一度悔改めながら二度と罪を犯すよりは、むしろ死ぬ程の苦難にも甘んじ、堪え忍びましようと言う事だったのではなかったかしら。

アンタイ

(婚約者の言葉に耳をかさず) いや、絶対に悪くはない。

(剣を抜きはなつ)

この剣で切って切って切りまくってやる。改宗したら腰くだけになったと馬鹿にした連中に切り込んで行つてやる。たった一人でもいい。このまま全部が武器を埋めてしまえばどうせ全員殺されてしまふのだ。どっちにしろ同じではないか。掟にも眼には眼、齒には齒をとあるではないか。

婚約者

王様が私達に説教をした事を貴方は忘れてしまったのですか。王様

父

は、これからはもう我々は同胞の血で、一度潔められ光を放つようになったこの剣を、決して汚してはならない、と強くおっしゃてはないですか。

(父二人のところまで進み出て婚約者に感謝するように)

よく云ってくれた。(アンタイに向つて) アンタイノ お前の嫁の云う通りだぞ。

(アンタイ剣を下けたまま父母に顔を反ける。婚約者父母と挨拶を交す)

婚約者

今度は御一緒にお供をさせて頂きます。こちらの家族の一員になるのだからと云つて父も母も喜んで、私がこえ来るのを許してくれました。

母

(婚約者を抱きしめ) 何んて可愛い娘なのでしょう。聞きましたよアンタイに対してのお説教を。

母 婚約者

あら恥しい。
いいえ。恥しい事なんかありませんよ。立派なものです。ほんとに感心してしまいました。私などと

婚約者

ても不勉強ですからあのように上手に息子に説教出来ないんですよそんな事ないですわ。お母さんがとつてもお話が上手だって事は教会の人たちは皆知っていますわ。

今度の事でもお母さんたちお年寄りの女の方の力が随分作用しましたからね。

母

そりや、長い間、戦争戦争でいつも惨めな思いをしたのは私達ですからね。誰よりも今回の壮挙には私達が一番積極的でしたよ。

(父、武器を穴にはおり込む。一ふりの剣のみ、手に持つ)

父

(婚約者に) アンタイはどうしても戦う気なのかな。

婚約者

ええ、私も今それを聞いてびっくりしてしまったのです。

父

アンタイノ 今、この子が云ったように我らの王が我らに云った事をもう忘れてしまったのか。

アンタイ

忘れはしません。しかし、僕は――第一僕のこの剣は今迄だって汚れてはいません。だから王様の云った事は僕には関係ないのです。

いや、関係はある。我らレーマン民族の全てに関係ある事だ。この数百年の我ら民族の大きな、そして、多くの罪と殺人の数々、まるで大蓄生を殺すように無感動にニ

ーフアイ人を殺し、女子供であろ
うが手当り次第に、その領土を
拓げる為に我らの民族は無残にも
これを殺戮して来たのだ。現に今攻

め寄せてくる大軍がそれだ。我ら
は恐ろしいレーマン人の名で呼ば
れるのを嫌い、アンタイ・ニーフ
アイ・リーハイ人と名乗るようにな

った。しかし、残念な事に一部
の人達はもとのままのレーマン人
である事を好み、今まで我らがや

つて来た事を改めもせずにいるの
だ。我らは彼らを憐れみの情こそ
持つが憎む事は出来ないのだ。そ

アンタイ

お父さん、僕を行かせて下さい。
例えひとりであろうと攻めて来る

敵にひと矢なりとも報いたいので
す。アンタイ・ニーフアイ・リー
ハイ人にも勇士ありと彼らに悟ら
せたいのです。

戦闘において勇しいのが勇士で
はないのだよ。攻めて来る敵兵を
前に武器を捨て去るのも勇気のい
る事なのだよ。

アンタイ

武器を捨てる事が勇気のある行為
ですって。とんでもないですよ。

敵が攻めて来るのを知り乍ら武器
を捨てる。それでは全く敗北者で
はないですか。嘗てのレーマン軍
の豪の者と云われたお父さんらし

父

くもない。
そうか。それではアンタイはこの
父に勝てる程、強く、そして勇気

アンタイ

もあるというのだね。
お父さんだって、もっと若ければ
きつと戦ってくれると思うのです

父

そのような事はない。私はまだま
だ戦える力を持っている。それで
も敢えて武器を取ろうとは思ひな
いのだ。

アンタイ

では、証拠をみせはください。

(アンタイは父に剣を向ける。父

も剣を抜きアンタイに向ける。母

は驚いて父を引き止めようとする

が父は母に優しく大丈夫だという

仕草をして母を後に下らせる)

(父とアンタイとは数合剣を交え

るが、アンタイの腕は父の比では

なく、簡単に剣を飛ばされてしま

う)

(父は黙って自分の剣を穴にほう

り込んでしまふ。下手より弟と隣

りの夫妻とがこの様をみてしま

う)

(隣りの主人に) いやー、これは

とんだ内輪もめを見せてしまつて

いやいや、どうも。どちらにこれ

を埋めるのです。

こちらえ、どうぞ。ここに掘って

あります。

どうも。

お手数をかけて申し訳ありません

(弟、隣りの夫妻の剣と自分も抱

えて来た武器とを穴にほうり込

む)

(弟に) では、そろそろ埋めても

弟

らいたいな。

はい、僕、埋めます。

(落ちてゐる兄の剣を指さし、あれは？と父に目顔で聞く。父は無言で首を横に振る)

(弟、無言で穴をいけ始める。

アンタイ突然に立ち上り、剣を拾い上げて上手退場。婚約者は少し追いかけるが思い留まる。しばらく沈黙の間に穴をいける音が続き、やがて穴は埋る。その部分が幾らか山盛りになる。)

では、これから神の御前に誓いを致しましょう。

(一同ひざまづく)

父

我らは、同胞の血を流すよりは

一同

我らは、同胞の血を流すよりは

父

むしろ自分達の命を犠牲とし、

一同

むしろ自分達の命を犠牲とし、

父

同胞の物を取るよりは、

一同

同胞の物を取るよりは、

父

むしろ同胞に物を与え、

一同

むしろ同胞に物を与え、

父

怠けて生涯を送るよりは、

一同

怠けて生涯を送るよりは、

父

むしろ自分の手を使って、

一同

むしろ自分の手を使って、

父

一生けんめい働く事を、

一同

一生けんめい働く事を、

父

神の御前に誓います。

一同

神の御前に誓います。

父・一同

アーメン。

(一同立ち上り「よかったですね」と云う様な短い言葉で互いに握手を交わす。その頃から遠くに軍隊の攻め寄せて来る時の声が聞えて来る)

父

どうやら、やって来るようですわ

隣人の妻

いよいよですわ。

(声の方に耳をそばだて、一同少々ざわめく)

父

我らの信仰のためされる時が、今

一同

こそやって来たようだ。皆の者よ

父

真剣に神に祈りをし、全ての事を

一同

神におゆだねいたそうではないかさあ、ひざまづいて、ひざまづいて。

父

(父、皆をひざまづくように手で示す。急ぎ足でアンタイかけこんで来る)

父

父

父

父

父

父

父

父

父

父

アンタイ

お父さん!!!

(その声に一同驚きアンタイの方をみる。立つもの、ひざまづいてゐる者とまちまちの格好)

父

アンタイ、帰って来たか。

アンタイ

お父さん、赦して下さい。僕が間違っていました。

父

おお、分ってくれたか。

アンタイ

お父さん、僕はこの目で見ました。真の愛情と、真の勇氣というものを。

父

どうしたというのだ。

アンタイ

レーマン軍の大軍が攻め寄せて来るのに誰一人武器を持たず、レーマン軍の前に出て行って、皆ひざまづいて祈りをするのです。切り殺されながら、誰も悲鳴を上げないのです。神よノとかアーメンの声のみ聞えました。それは、実に神々しく、僕は本当に胸を打たれました。あれが本当の勇氣ある者の態度だと思いました。

父

そうか。そうだったのか。

アンタイ

お父さん、この剣を受けとって下さい。そして僕も仲間に入れさせ

て下さい。

(強くうなづいて剣を受け取る)

(剣を抜き放ち、その剣を一同に見せるように高く振り上げる)

(力強く) 愛する我が家族と友よ

我らは何と幸いなことであろうか。我らが偉大な神は御子の功德

によって我らから良心の咎めを除き給うた。みたまえ。我らの剣は

光を放つようになった。それは神はすでに我らの罪の汚れをとり去

り給うたからである。それであるから我らは再び、同胞の血でこの

剣を汚してはならない。我らの剣は汚れないままにその光を失われ

ぬままに取っておこう。そして、神の御前にそれをお見せしようで

はないか(父、剣と武器を埋めた小山にアンタイの剣を突き刺す。

そして、ひざまづく。一同もひざまづく。アンタイと婚約者とは嬉

しそうに手を取りあって最後にひざまづく。罫りは急に暗くなり、

この小山と剣、そして一同のひざまづいている姿が、シルエットと

なって映し出す。この時とさの声

は一段と高くなり、罫りは赤く燃え上る。二、三人のレーマン軍の兵士が足音荒く、上手より登場する)

レーマン
軍の隊長

よし。ここはお前達で切って終え

(レーマン軍の兵士はひざまづく人々の中にわけ入って立ち、剣を振り上げる。)

(誰とはなく、讃美の歌を低くう

たい出すと、それが一同に拡がり出す)

どうした。ぐづぐづするな。(兵士は隊長に怒鳴られても切ろ

うとはせず、一度振り上げた剣を力なく下げてしまう。)

何をしているのだ。早くせい。(兵士Aは剣をなぜ出し)

隊長、もう止めて下さい。(兵士Bも剣をなぜだす)

どうかこの人達を斬るならその前に私を斬って下さい。

そうです。この様な立派な人達を斬るよりは斬られる方がもっとましです。

もうこんな戦争はごめんです。ようし。そうまで云うなら、お前

達を先にたたっ斬ってやる。

(兵士Bの前にきて剣を振り上げる。二、三度思い直して斬ろうと

するが斬る事が出来ない。力なくうなだれる。)

隊長

(弱々しく) 敗れた。

(よろよろと下手へ退場しながら) (はきすてるように) 敗れた、

隊長

(隊長退場してから、罫りはまた静かになり次第に明るくなる。一同夫々立ち上り二人の兵士をとり

まき握手を交す。皆嬉しそうに抱き合い、お互の無事を喜び合う)

(頓狂な声を張り上げて) わあ、戦争は終わったあ、

(とび踊ねながら退場する)(一同はほほ笑みながら、この元

気のよい弟を見送る。)

(兄、見送りながらつぶやくように) そうだ。戦争は終わった。

(婚約者の手を取り、優しく肩に手を置いて)

アンタイ (遠くを見つめて力強く) そしてさっと平和な日が出て来る。

一九六〇年七月三十一日

——幕——

あとがき

昨年の五月六月に、東京北支部の熱心な数人の会員たちは積極的に安保闘争に加りまして、デモに参加したあとはその話題で支部内を賑わしました。聖餐式会の説教の話題にのぼったり、証会が安保闘争一色に塗りつぶされたりしたので、会員同志の討論も活潑となり、ついには伝道部長のこの問題についての説教も飛び出したりして、教会内がいささか政治色が強くなりました。

デモに参加して、水ホースで一問も飛ばされた兄弟や、取材に行ったジャーナリストの兄弟が警官の警棒で、ボカボカなぐられたりしたなど、話題は豊富かつ深刻でありました。安保反対の兄弟たちが、いずれも活潑な良い会員であったので、なおいっそう真面目で真剣なものでありました。

当時北支部長でありました私は、この兄弟たちに囲まれて、政治問題について、いささか関心を深めることができました。教会の立場からすれば、政治と宗教は分離されるものでありますから、いくら私が政治に関心をもとうと自由ですが、教会の一役員として、教会の立場からは、安保問題に対して意見を述

るべきすじあいのものではなかった。したがって個人としては、安保に反対であろうと、支部の支部長として、支部の会員に対して、それを主張することはゆるされなかった。宗教的立場から人類の平和を強調し、戦争の罪惡を、主張するにとどまるをえなかった。

その頃、ある一部の宣教師が、安保闘争は国際共産主義による煽動であるという情報により安保に反対することは悪いことだと主張し、またある役員により教会内におけるある圧迫をうけた。

いづれも個人的な意見や主張ではあったがこのことを知った会員たちにはあたかもこの教会がアメリカ政府の紐付であり言論の圧迫が加えられている、との印象をうけたようである。モルモン教会は、決してアメリカ政府の紐付ではなくまた言論の自由も圧迫されてはいないということを、知ってもらうために、私は東京北支部長として、数人の兄弟と相談し、ファイアサイドの一つのプログラムとして、平和についての話し合の機会をつくった。とうぜんのことながら話題の中心は、安保問題となったが結局純粋に宗教的な立場から、我々は人類の平和を願うことについては意見の一致をみた。また政治的な不満は、当然あ

ることとしてその発言は選挙の時の清き一票によりしようというデビッド・O・マッケイ大管長の言葉を拝借して結論とした。

しかし若いエネルギッシュな兄弟たちは、単なるデスカッションのみで満足するものではなかった。

もっと強烈にこのことをほかの会員たちにも知らせたいという気持はなくすことができなかった。そこで私はかねてあためていたモルモン經典の、アンタイニーファイリーフアイ人の無抵抗の勝利をドラマにしようと思った。ペンをとった。できあがったものがこの脚本であるが、「戦争はもうごめんだ」とか「平和がやってくる」とかいう私たちの叫びを随所に入れた。古代アメリカ文明の人たちの口をかり私たちのねがいをこのドラマにもりこんでみたのである。キャストとスタッフを合せると約二十人の協力をえなければできない脚本ではあるが、熱烈な安保反対信者たちの協力により十月の東中央地方部大会に上演することできた。

観客の大かたは純粋なモルモン經の聖劇としてみてくれた。もちろんモルモン經典のアルマ書の史実に忠実にえがいているので当然ではあるが、私としてはほっとした気持であ

った。この劇の成功により、信仰と証を強めた兄弟、姉妹のあることは、事実である。またある会員にとっては、救いになったこともまた事実であらう。

日本中を揺ったあの烈しい安保闘争により生れた宗教劇、汚れなき剣、もようやく完成より一年たった。上演するのにはなほ無理な条件を備えている劇ではあるが、一つのエ

ピソードを持った脚本として、あえてここに掲載することにした。

(本誌編集長、東中央地方部第一副地方部長、前、東京北支部長)

伝道本部

だより



バプテスマ

森山 明子	阿倍野 高橋 秀也	福岡 町田 輝史	林 勝久	広田 英博	広田 茂幸	柏倉 則雄	加藤 武幸	室蘭 加藤 華代子	岡 町
田中 美千子	富名腰 芳枝	福岡 大石 知子	名古屋 池田 正彦	永田 清次郎	三ノ宮 刀 称 雅一	牧 瀬 十二郎	金 岡 三枝子	早 川 みち子	岡 町
高橋 富美子	吉田 慎子	金 沢 大石 まさこ	大石 真理子	土屋 義元	大塚 千恵子	宮本 和子	宮本 輝男	東京南 宮本 輝男	東京南
金 栄 鶴	小林 順子	増 淵 章	川 津 静子	川 津 くにえ	川 津 くにえ	川 津 くにえ	川 津 くにえ	川 津 くにえ	川 津 くにえ
伊藤 君子	旭 川 草野 信幸	川 津 静子	川 津 静子	川 津 静子	川 津 静子	川 津 静子	川 津 静子	川 津 静子	川 津 静子
宮島 慎治	高田 充子	川 津 静子	川 津 静子	川 津 静子	川 津 静子	川 津 静子	川 津 静子	川 津 静子	川 津 静子
渡辺 泰也	福岡 山本 よし子	甲 府 川 津 康義	川 津 康義	川 津 康義	川 津 康義	川 津 康義	川 津 康義	川 津 康義	川 津 康義

白	金	金	姜	沈	金	朴	李	李	金	金	崔	成	朴	吳	金
仁	鳳	胃	春	載	春	郷	忠	貞	英	暎	重	河	平	世	且
喆	喆	星	子	録	子	薫	市	子	珍	禾	徳	心	河	明	玉
〃	〃	〃	ソール西	〃	ソール東	〃	〃	〃	〃	〃	ソール中	〃	〃	〃	〃

白	承	ソール西	黄	成	烈	〃	神	権	執	事	エン	ドウ	タカ	ノリ	旭	川
承	国		成								フジ	タツ	ゲオ	福	岡	
											ハタ	ノ	サトル	広	島	
											ニツ	タ	ノ	リ	仙	
											タカ	ハシ	カツ	トシ	〃	
											ナカ	ダ	チ	カラ	〃	
											サカイ	ハ	ジメ	東京北		
											モリ	ム	ラ	ヒ	サオ	
											オシ	ロ	マ	サル	〃	

(他に朝国で三名)

ヤ	マ	ダ	カ	ツ	ヒ	ロ	ヤ	マ	ダ	カ	ツ	マル	ホ	ソ	ノ	タ	カ	ツ	グ	サイ	ト	ウ	ア	キラ	〃	サ	カ	モ	ト	ノ	リ	フ	ミ	ク	サ	カ	ア	キラ	柳	井
三	ノ	宮	仙	台			東京	化					東京	南											東京	南														

(他に朝国で一名)

支部住所変更

七月一日より、東京西支部所在地が左記に移転しましたのでお知らせいたします。

今、東京西支部の連絡は全て、この場所にお願いたします。

なお西支部の宣教師たちもこの場所に移りました。

東京都港区青山北町六丁目三十四(表参道)

最寄りの駅 国電、原宿駅

地下鉄、明治神宮前

東京北支部の連絡先も左記のように変わりました。

東京都豊島区千川町一丁目二十三の七

ブラン チ ティーチング レッスン

AARONIC PRIESTHOOD

あなたの肩に かかっている 宣教師の責任

あなたが「どうして教会員になったのですか」と聞かれた何と答えるでしょうか。たぶん大ていの方は「両親が教会員だったので」と答えるでしょう。しかし、そのほかの人たちは「私は確信を持ったから教会に入ったのです。私はこの教会の教義をいろいろ研究した末、それが真理であることを知ったので教会員になりました」と言うかも知れません。これらの答えはどちらも適当な答えでありますが、事実を一部分しか語っておりません。本当は、宣教師が私たちのところへ訪ねてきたか、またはずっと以前に私たちの祖先のところへ宣教師が訪ねてきたので、私たちのうちの大部分の者が教会へ入ったのであります

宣教師の働らきは神のみわざであります。それは神の真の教会にあるいろいろなしるしの一つであります。宣教師の働らきは、始めの真中の神権時代」に救い主が親しく導きとめぐみを施しておいでになったとき、主は十二使徒に命じて「あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのこを守るように教えよ」(マタイ伝二十八〇十九・二十)とお言いになりました。現代に於て、救い主はこれと同じことをせよとわが教会の長老たちにお言いになりました(「教義と聖約」五十

八〇六十四、八十四〇六十二)。

ただ今六千人以上の宣教師が外国伝道部に福音の伝道をしております。しかし、この人数でも世の人々に福音の言葉を伝えるには不足しております。この立派な目的を完遂するには、この人数を二倍にする必要があります。そのためには、支部、地方部、ワード部、ステーク部等の指導者、両親、青年、青年の指導者、メルケゼデク神権定員会の役員および定員会々員、さては教会の全会員が、目標に到達するために協力一致して努力しなくてはなりません。家庭は子供たちの心の中に宣教師となって伝道に出たいというねがいを植えつける理想的なところであります。これは子供たちがまだ年の行かないうちにせねばなりません。すなわち、満十二才になったところに伝道に行きたいという志を一人一人に持たせなくてはならないのであります。

宣教師の働らきはわが教会の生命力であります。そのために新しい改宗者がたえず教会に加わって教会員が増すばかりでなく、また宣教師自身も宣教師を支えている人々たちもはげまされて活動するのであります。そのために与える人も与えられる人も共に良い酬いを受けております。すなわち宣教師たちは自

分たちのもっている知識から与え、改宗者たちはこれを受けて、与える者のもっている宝と同じ分量の宝をもつようになるのであります。宣教師たちは自分たちのもっている知識を分け与えても、その知識はけつしてへることなく、かえつてますます豊かになつて与える者の心も受ける者の心も共に新しい喜びがあふれます。

宣教師の働らきの価値はその結果がはつきり示しております。人格と勇らしさを示す最もよい模範は宣教師たちの生活をおいてどこに見られますか。宣教師たちの気魄を感じ、宣教師たちの熱烈な証詞を耳にすることほど、すばらしい感激を与えるものがほかにあるでしょうか。改宗者たちの生活に福音が与えた変化くらい奇蹟的なものがほかに見られるでしょうか。彼らの生活ぶりはしばしば別人の生活のようになっております。

宣教師の働らきは「祝福のプログラム」であります。この働らきに関係をもつものは直接間接に利益を得ております。すなわち、宣教師自身、その両親、家族の人々、宣教師の友人、改宗者、教会員、社会、国家、世界、みなとともにこの靈性を高める力によつて一層よくなるのであります。わが教会の伝統であ

るこの偉大な宣教師制度を維持し、現在および将来の必要に応ずるようその潛勢力を増す

第一長老定員会の計画

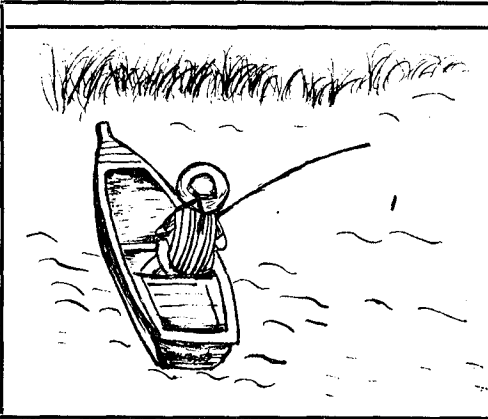
MELCHIZEDEK PRIESTHOOD

「さらば汝らの天の父の全きが如く汝らも全かれ」(マタイ伝五章四十八節)とは、キリスト・イエスの我々人類に給うた崇高な御教えである。まことに我々人類が現世にあってまた来るべき世にあって、力強く生きようとするのは一に完き神のごとくになるためである。では完き神のごとくになるためである。では完き神のごとくになるために一体我々は何をなすべきであろうか。答えは簡単である。神のごとく高められるための「道」すなわち正義と真理の道なる「福音」によく従うことである。

ことこそ私たちの責任であります。

しかし完き「福音」に従うには、先ず「福音」をよく知らなければならないしまた知るには、福音を探究し学ばねばならない。幸いに我々は探究の結果「福音」を知り、そして今日まである程度その「福音」に従つて歩んで来た。しかし更に高められて神に近くなるために我々はもっと深く「福音」を悟り知りそれを日々の生活に実践して行かなければならない。それ故、我々は今一度自らを省みて「福音」を更によく悟り知るために日々定期的に「福音」をひもとくよう決心しようではないか。もし我々が日々十分でも二十分でも時間をつくつてこの完全なる「福音」を祈りに満ちた謙遜な気持で研究するならば、我々は一段と強く福音に生きようとの気持かられるに違いないし、また我々の所有する神権が福音の理解に与かつて力のあるものであるということをも、再認識するに違いない。何となれば主が「この大神権は福音を授け、また王国の奥義の鍵、すなわち神の知識の鍵を保つ……」。(教義と聖約八十四章一九—二十二節)ものであると仰せになっており給うからである。

— 8 月 用 —



強い日光の下で今日も子供達は元気に飛びまわり、夏休を満喫していることでございましょう。ところが、この学校では夏休がございませんで先生方にはまことにお気の毒でなりません。この期間こそ、とかく不規則な生活に落ちいりがちな子供たちを、教え導いていただきたいのです。したがって今月は夏休み特集号とでもいいましようか？ きびしい暑さの中で学ぶ方法、語等を載せることにいたしました。

(1) 子供の日曜学校開始時間

これは出来るだけ早い方が良いです。各支部のおかれている状態によって異なりましようが、できましたら八時半頃より開始してください。やはり涼しいうちの学習が身にはいりますし、子供たちもその方が喜ぶのではないでしようか？

(2) 学ぶ場所

教室を室内に限らず外に持ち出してみてはいかが？ 木陰で自然に囲まれながら学ぶのは子供たちに何時までも印象づけることでございましょう。外に適当な場所のない支部

は、室内でレッスンを行なって頂くわけですが、只じっとしているのでさえ暑いのですから、窓をよく開き、部屋に風を通しましょう。そして日向をきけ、陰った方に子供たちを、すわらせることです。よほど巧くレッスンを準備しておかないと子供たちの集中力を逃がしてしまいます。（夏に限らず常に）。

(3) レッスン方法

先生方に今までよりさらに一段と力をいれて準備して頂きたい。まず、教えるべき課をよく読み、その中で何を云わんとしているのか、よく把握すること、決して長々と要点を握むのではなく、簡単明瞭にすることが大切。それがつかめたら、いきなり要点を子供たちにおつつけないように。要点に到着するまでの方法を、あれこれと考えること。つまり、この時こそ、おおいに視覚教材を利用して頂きたい時なのです。目と耳とから吸収されます。子供たちは、レッスンが面白いと、くいい入るようになまざしで、じーと目と耳を先生に傾けていますが、その反対であると実にはつきりと態度によって示すものです。視覚教材として色々な物を使うことができます。一般的にフランク・ボード、紙芝居、絵、玩

具、その他、私たちのまわりをかんでいる有型、無型の物、まだまだ数知れないほどの教材があります。次にそれらの教材と要点とをいかに結ぶかが問題となります。その例として人形を使って、隣人愛をこんなふうになぞってみては如何でしょうか？（下級向）



人形は美しく、きれいなものの一つ

よごれた上に片手のとぎれたのを一つ
計二つを用意します。

子供たちの前に二つの人形を、両手でかざしどちらが好きかたずねる。もちろん、美しい方を好むと答えます。よごれた方を下におききれいな方がなぜ好きか質問をする。とても参考になる答を出してくれるでしょう。次にきれいな方を下にして、よごれた方を手にとり前記とどうよの質問をする。両方の答を先生はよく憶えておき、次の話の中で、それ

らの答を使いながら話を進めてまいりましょう。

『美しくきれいな方の人形は、ほんとうに可愛くて、いつも私たちをやさしい目でみつめてくれるし、心の中でスーッという気持ちにしてくれますネ』

『でも、こちらのよごれた、人形は、皆さんにさらわれてしまったの』

『皆さん、このお人形さんも、始めは、こちらのお人形のように美しくきれいだったの』

そして、いつも良子ちゃんの遊びの相手をしてくれました。けれどだんだん、お人形さんはよごれて来ました。そんなある日、いたづらっ子が、このお人形さんを、とりっこしてひっぱりあつたので、とうとう片手がとれてしまったのです。可愛想ですネ。お人形さんは、口がきけませんから、じっとがまんしていました。どんなにいたかったことでしょうネ。もっとお人形さんを可愛がって、大切にしてください。お人形さんもよろこびますヨ。もう一つ、お人形さんに親切にしてあげましょう。ひる間のお遊びでお人形さんも夜になると、とてもつかれます、ですからよく眠ることができるよう、きちんとおもちや

箱にねかせてあげましょう。明日もまた一緒に楽しく良い子たちと遊んでくれますヨ』

『そして皆さんはお人形さんだけでなく、誰にでも親切にしましょう。そうすると天のお父様はとてもうれしく思い、皆さんがいつも元気で良い子であるように御守りくださいます。』

次に忘れてはならないことがらをいくつか申し上げますと……

a 言葉は簡単な言葉を使うこと

（聞き手が子供ですから、先生方が普段使っている言葉では子供たちに理解してもらえないことがあります。）

b レッスンには教科書通り忠実に守らなければならぬものではありません。必ず要点をつかみ、どんなにでも分解して要点のみこませてください。

c 視覚教材は大変良い手助けをしてくれますから、どんどん利用すること。

d 先生方の指の動き、目の動き、つまりゼスチャーも大切です。

e 先生方のタレントを充分に活用すること
f 教えることに對して自信を持つこと
g レッスンを受ける度に子供たち自身が福音

を育ててゆかれるよう。

(4) 活動

各支部とも独特な活動をもっていられしや
ると思います。先生方は子供たちと一緒に活
動し一緒に考え、必要なガイドをしてあげて
ください。この際注意しなければならぬこ
とは活動に重点をおかないで欲しいのです。

幼稚園ではないのですから、あくまでもレッ
スンに重点をおくようお願いいたします。

(5) 子供たちと、いっそう仲良しになる手段と
して夏休みの宿題を協力してあげても良いと
思います。ただし全部を手伝ってしまのでは
なくヒントを与える程度に止めてください。

子供日曜学校八月練習の讃美歌

子等は歌う 四一番「荒野を過ぎて」

短い簡単な歌ですが、子供たちに非常に親
しまれている歌ですのもう一度練習しまし
よう。楽譜にはむずかしいことはないと思
いますが、キャンプやインディアンが出て来ま
すので言葉の方に興味を持たせて、くり返し
憶えるようにしてください。

九月練習の歌は「一五番」なぐさめのイエ
スさま。

SUNDAY SCHOOL

日曜学校ガイド

— 8 月 用 —

八月練習の讃美歌

第二三番「恐れず

来れ聖徒」

私たちモルモンもつ
とも愛唱している讃美
歌の一つですので、練
習するまでもないと思
いますが、もう一度楽
譜をよく見て正しく歌
うことを学びましょ
う。まず速さですが、

いろいろな支部で非常
にゆっくりとうたって
いるのをよく聞きま
す。あまり遅くなって
だらけたようにならな
いよう注意してくださ
い。新しい讃美歌集は
新しく編曲して、拍子
の変った歌があります
ので、指揮者は特に注
意してください。

九月練習の讃美歌
は、一六〇番「主の方
には」です。

八月七日（日）の日曜学校のテーマ

「友達か家族を一人以上連れてくる日曜」

各支部の日曜学校の会長会は、この安息日
のテーマを生かして、会員求道者が必ず友達
か家族の人と一緒に日曜学校に参加するよう
強調して下さい。あなたたちが主の戒を心か
ら喜んで守り、義しい清い生活をしようとす
るとき必ず周囲の人々（家族、学校の友達、
職場の同輩）から次のように言われることと
しよう。

「なぜお茶を飲まないの？」「どうして日曜
日だと一緒にピクニックに行けないのかい
？」「かんばいをジュースでやるなんて全く
変っている奴だ」（歓迎会、同窓会などで）
そのときあなたたちは「我は福音を恥とせず」
とばかり回復されたこの真の教会の説明をな
さると思います。するとその人たちは「モル
モン」という異様な響をもつ名前と普通の人
とは変っているあなたの行っている教会に少
からず興味をもつことでしょう。そういう人
々を教会に導くのは私達の大きな責任の一つ
です。

この日は特にそういうお友達のためにいろ
いろ気を配って下さい。レッスンはその人た

ちをクラスの人たちに紹介するとか、二分半の話に次のようなことを話手が話すように頼むとかして……「始めて教会にきたとき感じたこと」「何故私に教会にくるようになったか」「教会にくるようになってから私はいかに変わったか」「教会で私は何を学んだか」……。できたらこの第一日曜日の夜のファイア・サイドは日曜学校が計画して、友達家族を心から歓迎するような楽しいひとときを送れるよう考えませんか。始めてきた人の「教会の印象」を語ってもらったり、レコードをかけたなり、スライドを映したりして……。

歓迎委員について

五月用の本欄に「親切なガイドを二人以上玄関で暖く出迎えること」を提案致しましたが、これはかなりの支部で活潑に行っているようです。特に始めての人などは握手には一寸面くらうらしいですがこの歓迎を大変暖く感ずることと思います。しかしこれらの歓迎が単に玄関のみで終るのだったらとしても残念なことです。礼拝堂に於て、始めて来た人求道者、新しい会員が後ろの方で一人ポツンと座っているのがみた目に何かつまらなそうに又所在なさそうにしているように感じるこ

とがしばしばあります。讃美歌の本もなし歌っていない人、本があっても何番か分らなくていろいろな本をめくっている人、レッスンの時間にテキストや聖書もなしポツンと一人で教師の話を面白くなさそうに聞いている人、神権会と日曜学校の間、日曜学校と神権会の間、一人淋しそうに黙って座っている人。などなど注意して見ると全くいろいろな人気がつきます。一体こういう人はどういう印象を受けて教会をでるでしょう。もう一度教会にくることをあなた方役員教師は確信することができそうです。そこである一部の支部では既に実行していることですが、そういう人に積極的に近づいていろいろと世話をする歓迎委員を五〜六人作るよう提案致します。

この委員たちは主に新会員、求道者、訪問者などの歓迎接待をします。勿論孤独好きでそういう接待をうるさくさ感ずる人もおりますし、熱心あまって会の霊的な雰囲気をこわしてしまふこともありますからその点を十分に考慮に入れて活動して下さい。そしてすべての人々が「本当に教会にきてよかった、来週も又来よう」と思うことができるように皆一緒に協力しようではありませんか。

新しい讃美歌の本について

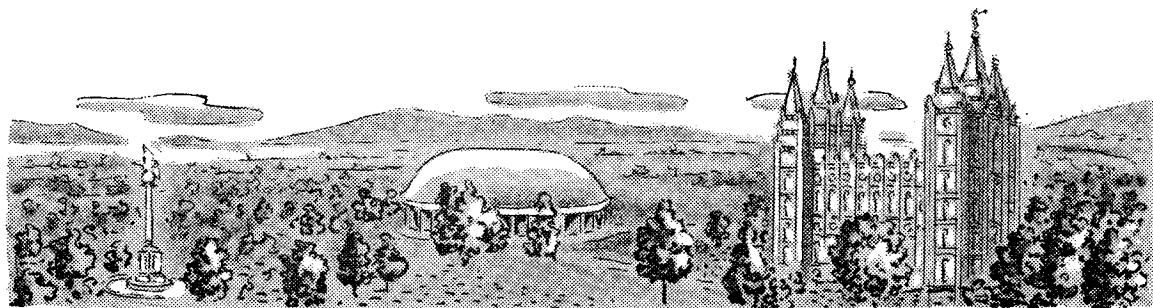
七月より新しい讃美歌を用いるよう提案してからかなりの支部では購入しておりますが一冊四〇〇円で、しかも前と違って全部支部負担なので足踏みしておる支部もあるようです。そこでこれはプロテスタントの教会で実際にやっていることですが一つのアイデアを提供致します。即ちよく教会にくる会員、求道者に一冊自分のものとして買って頂き、それを集会の際にいつももってきてもらうことです。御承知のように新しい本では歌詞はかなり変わっておりますから教会ばかりでなく家庭でもよく口ずさんで新しい歌詞に早く慣れる必要があります。そのためにもお家に一冊備えておいても悪くはないはずです。それに支部の財政もあまり裕福でないこともほめかれば、かなりの人はこれに賛成してくれることと思います。実際にこれを行って大成功した二、三の支部も知っております。又これによって讃美歌が傷んで、こわれたり、なくなったりするという難問題も解消すると思えます。「イッキョ、リョウトク」とはこのこと。しかし勿論もっていない人のために二〇冊位は教会に備えておかねばならないと思います。

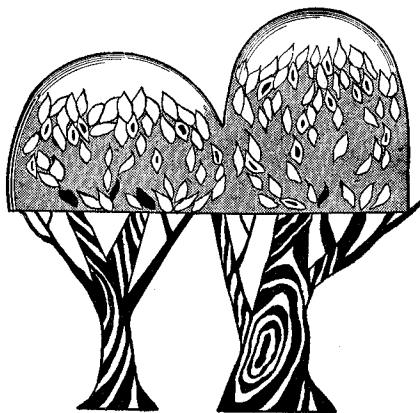


教会の儀式

儀 式	目 的	や り 方	始 ま り	参 照
バプテスマ	バプテスマは二つの大きな意味をもっている。 (按手礼によって完結される) ①罪の許しのため(古い自分は埋葬して新しく生れる) ②キリストの教会員になるため これは又真の救いに至るための最初の門であり、信仰、悔改めの階段を上った人に行われる。	バプテスマは8才以上の男女はすべて受けることができる。 全身を浸すに十分な水のある場所(川、水溜、池など)で行う 授ける人はアロン神権の祭司の職にある人、長老などの神権者でなければならない。	アダムとイブ 近代になってからは福音が回復された後、1929. 5. 15. バプテスマのヨハネがジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリにアロン神権を与えお互いにバプテスマを行った。	モーセの書6:52—65 ヨハネ伝 3:5 教・聖 20:37 35:6 ジョセフ・スミスの著 2:70, 71
按 手 礼 (確認)	バプテスマに続く確認の按手礼はバプテスマの目的を完結させ、その人に聖霊の賜物の祝福を与える。	バプテスマの後あるいは次の日曜日聖さん会するとき行う大神権者がその人の頭に手をおいて行う。	アダムとイブ 近代になってはジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリがバプテスマの後聖霊の賜物を受ける。	モーセの書6:65, 65 ヨハネ伝 20:22 教・聖 39:23 ジョセフ・スミスの著 20:75—79
聖 さん	聖さんはイエス・キリストの贖いを記念する。これにあづかることは御子を常に忘れず、バプテスマの際神と約束した誓約をもう一度新たにし、喜んでその戒を守ることを決意する。	日本では主に日曜学校の後、聖さん会をもうけてそこを行っているが欧米では日曜学校の中で行われることが多い。イエスの肉と血の記念にパンと水を用いる。式の執行は祭司以上の職にある人のみでできる。	イエスが12弟子たちの前で最後の晩さんのときに行う。これは又ニーファイ人たちにはイエスによって始められる。近代になってからはジョセフ・スミスへの啓示にもとずき1830年4月より始められる。	マタイ伝26:26—28 マルコ伝14:22—25 ルカ伝 22:19, 20 第3ニーファイ書 18:1—12 教・聖 20:75—79

儀 式	目 的	や り 方	始 ま り	参 照
子供への祝福 及び命名式	この儀式は子供が命名され祝福を受けるためのものであり、この儀式により、子供の名前は公式に教会の記録に入る。	一般には断食の第1日曜日の聖さん会るとき行われる。特別に支部長の許可を得て家庭で行われることもある。普通は父親が大神権者ならば彼が自分の子供を祝福命名する。	この儀式はジョセフ・スミスへの啓示にもとずき行われるようになる。	教・聖 20:70
油 の 聖 別	聖なる儀式、病人のいやしのための油は特に主に献けて聖別する。	いつ、どこでも行われることができる。普通はオリーブ油が用いられ、大神権者だけがそれを執行することができる。	近代になって行われるようになる。	私たちは御前にこの油をさし出し、神権の権能によってこれを聖別し、これを献じ、病めるものたちのかん油といやしのために特にこれを取り分けする。
病人のいやし	病人がその信仰と主の御心により元の健康に立ち戻るように行う。	いつでもどこでも病人の要求によりとり行われる。(会員でなくても良い) 大抵の場合は病床で行われ大神権者のみ執行できる。	イエスや弟子たちは度々按手によって病人をいやす。近代になってジョセフ・スミスへの啓示によってこの儀式は再び行われるようになる。	マタイ伝 4:24 マルコ伝 6:13 ルカ伝 4:40 使徒行伝 28:8 ヤコブ書 5:14, 15 教・聖 42:43, 43 107:67





MIA リーダー

8 月 用

MIA活動に対する提案事項

MIAの靈的活動のうちで重要なもの一つに演劇がある。大管長デビッド・O・マッケイは演劇に関し次のようなことをのべている「長年多くの人々、特に教会の人たちは、舞台の人々があたえる善い影響より悪い感化を考えていた。ある人は、聖書と舞台とを同時に相容れるできない。とまで極言している。確かにこの世において私的に正しいものが必ずしも公衆の面前でも適切であるとは云えないような人間関係が存在している。それゆえに舞台では上演されてはならないようなものが『公衆が欲するからだ』と云う口実で公演し、正当化しようとしている。

人を楽しませるばかりでなく、人の心を高揚せしめる教育的な演劇を提示するのはMIAの義務である。諸君の任務は勝利を得たり演劇上の技術に熟達する以上に演劇に興味を持って参加する全ての人々のために、他のいかなるところでもなされないことをこのMIAの演劇の中で行わねばならない」。

これこそMIA演劇指導者の責任であり任務です。この崇高な目的を遂行するために必要な標準に就いて簡単に述べてみます。予言

者ジョセフ・スミスの信仰簡条十三条を私たちの目的としよう。

「我らは正直、真実、貞潔、慈善、厚德なべく万人に善を行うべきを信ず……」。

皆さんの上演する劇そのものは末日聖徒イエス・キリスト教会を代表するものです。従って劇は聴衆も参加者も常に心して準備されねばならない。

一、練習も実演も祈禱して始め、終ることは当然の事である。神の聖なる導きを求めずに神の御業を成すことは大きな冒瀆である。ゆえに離婚、殺人、自殺、知恵の言葉や不道德な言動、呪詛悪口を含む対話、等を上演してはならない。

二、日曜日に練習してはならない。安息日の精神から云って当然のことである。

三、舞台装置はお互いの協力によって製作した方がよい。それによって皆さんの美に対する鑑賞眼と創作力を培うことができる。費用は支部予算から支出されます。若し費用が膨大で支部にその能力が無ければ適切な劇に変更するか、あるいはバザー、寄附パーティー、社会的交際、音楽会等によって作られなければならない。

四、危険な小道具、細工物を使用しないこと

は当然である。ローソク、刃物、飛び道具等は火災上、また保全の上から絶体中使用されるべきではない。

五、その他劇に参加する人の服装は華美な飾飾を避け「服装の標準（六月号参照）」を遵守して欲しい。顔の全面を覆うマスクの着服も禁止されている。人種を差別するため顔全面を黒色や褐色に塗りつぶすことは避けるべきである。黒人の劇を演じる場合、特に留意して欲しい。勿論特別に意識する必要はないが、彼らを安っぽく下品らしく見せることのないよう気を付けてください。最後に劇の上演は観客があつて始めて成り立つことを覚えて彼らに充分なサービスをしてやって頂きたい。戸口で正しく接客した後で案内者が客を引受けて手際良く導いてやらねばなりません。招待者には座席が確保してあります。常に快い状態に保つために換気と寒暖に気を配ってください。全て万全の用意があつて始めて公演は成功するのです。（佐藤記）

八月三日「MIAで逢いましょう」

この日の責任は全MIA役員にあります。特に各クラスの教師及び活動グループの指導

者は良く準備しなければなりません。

まずMIA手引三十九頁を読んで今夜の意義を良く知っておきましょう。

一人でも多くの人の興味をMIAに向けるために、MIAに出席することの重要性と、また利益を知らせなければなりません。その為にレッスンのクラスの教師は、自分の役において過去一年間、どんなことを学んで来たか、またそれによって我々の証詞はどんなに強くなったかと言うこと、またそれ等のことは実生活において、どのように影響しているかと言うことを発表する方が良いでしょう。（教師が発表しても良いし、またクラスの誰かに責任をあげてもいいでしょう。）また、活動のグループのリーダーに自分のグループではどんなことを行っているか、人々の興味を引くように発表すると良い、例えば音楽のグループは全員で（グループの）コーラスや、器楽合演するのもよし、ダンスのグループはデモストレーション、ダンスをするのも良いことだと思います。各グループの指導者は腕によりをかけて、良いプログラムを作成して下さい。

全部の発表が終了したら、皆で各自招待したお友だちを紹介できるようなゲームをしましょう。

よう。全員で楽しいゲームをしながら、新しいお友だちの名前を覚えましょう。それゆえにゲームのための責任者を選んでおきましょう。（これはクラスの教師、グループのリーダー以外の人が良い）今夜の会によって総ての人が再び、否、続けてMIAを訪れたいと言う希望を持つように興味ある愉しいものにしましょう。不活動会員の招待をわすれずに。また今働いている人たちが必ず一人以上のお友だちを伴って、やって来るように話してください。日頃出席していない御両親も招待しましょう。また支部内の若いママさんたちもわすれてはいけません。成功を祈っております。（栄子記）

八月三十一日「年度末パーティー」

此の北部極東伝道部においても、ソルト・レーク市のMIA中央管理委員が計画したように、新しいMIAの年度末を向えるわけです。過去一年二ヶ月の間勤勉に働いて来たMIAの役員たちを皆さんの前に紹介しましょう。MIAの役員たちを皆さんの前に紹介しましょう。MIA会長会・レッスンの教師及びクラス・リーダーまた各活動クラスの指導者として彼らを手助けして来たアシスタントの方々、これらの人々は実によく働きMIAの

計画を無事にはこんで来てくださいました。

この人たちの携った数々の仕事に対する労苦に対して感謝し、それらの働きをほめたたまえましょう。このパーティーの席上、彼らの成功談や失敗談を話して頂くことも良いことです。さてこの夜のプログラムの作成企画者は、MIA役員一同にありますが、やはり沢山の人数ではまとまりが悪いので実行委員を二名選びましょう。(YM及びYWの副会長がその任を取ると良い)後の全役員(MIA)は連帯責任者として実行委員に全面的協力をお願いします。そこで先ずプログラムの内容であるが、次の五つのことが含まれているべきです

一、MIA全役員の紹介

(この職と仕事の説明……MIAにおける)

二、MIA役員に対して感謝

(支部長会の方、あるいは地方部MIA指導者、または一般会員の中から)

三、各級(Mメン、Gナーの級及びエンサインロールの級) また各活動のクラス

(ダンス演劇、スピーチ、音楽等)の年未報告(簡単に)成功談や失敗談を入れるがら……)

四、新しい年度のプログラムの簡単な紹介

(一人でも多くの人が続けてMIAに催いたいと言う希望を持たせる。)

五、皆でこの夜のパーティーを楽しもう

(ゲームやダンスを用意しよう)

今提案した五つのことを良く頭においてMIAの役員で計画を立てましょう。また簡単なリフシュメントを用意しても良い。

※ダンス・グループの指導者のために。

各地にあって指導されている方々の要望により次の二冊の本を伝導部より紹介します
参老書として使用してください。

「新しいフォークダンス」 中山義夫著

発行所 鶴書房 価格 金百五十円也

「社交ダンス必携」 玉置真吉著

発行所 楽友社 価格 金百六十円也

海と山のこと

私たちの楽しい青春を真夏の太陽が祝福してくれる季節がやって来た、すでに若人の心は海へ山へと、とびはねていることであろう朝もやのかすむ中で「ヤーホー」とこだまする夜明け、脈打つ山波にやがて朝日の顔を出す頃冷たい谷間の川水で米を洗う手が切れそうだ、未だ人々は覆っている三角のテントの中で……そつり立つ岩が明日はやって来いと

呼んでいる、山はいい。――

白い波が岩に砕ける、後から後から追いかけてくっている。ギラギラと輝く小さい粒。握った手のひらからさらさらとこぼれる。緑の海と青い空、立ちのぼる入道雲、あそこが水平線なのだ。「涙は熱い」裸の素足がそう言ってる。赤黄青、原色が目に痛い大きなパラソルの中に誰がいるのかな？ 我々の夢は大きい。

楽しい季節がやって来て各支部において、キャンピングや海水浴を計画していることであらう。我々はMIAの会員として次の標準を守ろう。

・キャンピングについて。

一、先ずキャンピングを行う日程、場所の指定について支部長の認可を受けること。

二、リーダーは経験のある神権者を撰ぶこと。

三、リーダーの他に数人の実行委員を作ること(できれば現地を一度視密しておくが良い)

四、キャンピング出発前と帰る時、全員の祈禱会を開くこと。またキャンピングの期間中の朝と夕べ全員を祈りをやることが望ましい。食事は各自別々のものを用意せず、共同炊事を行い、同じものを食べるようにする(このことによって共同体の精神と協

力と言うことを学ぶことができる。食事の折りは代表者が行うようにする。

五、男子と女子のテントは別々に立てること
エンサイン・ローレルが共に行く時は、エンサイン・ローレルの中にMメン、Gリーナーの責任者をおくこと。

六、ナイフ、ナタ及び火の使用について充分注意すること。高年のMメン、Gリーナーがこの責任を持つことが望ましい。

七、九時にはこの日のプログラムを終わって、各自テントに入るようにする。おそくも十時までには就寝すること、

行く前に何度か打合せ会を開いて準備し、不必要な荷物をさけるようにし、各自が是非必要なものは必ず持つて来るように注意する。定められたものを持って来ないで、他人に迷惑をかけてはならないし、またおしゃれのために、何枚もの衣服を持ったり、化粧品を沢山持つて自分で持ち切れない程の荷物を作り他人の手伝いを願ったりしてはならない。特にキャンピングにおいてはテントであるとかナベや釜を持つて行ったりするので荷物が多い。女子は男子の手助けがなくても各々自分で持つて行けるだけのものを用意し、気取って手下籠やトラ

ック等は決して持たぬこと。必要なもので、自分が持ち合せていないものは、友人から借りるなりどうしても見つからない時は、M I Aの役員に申し出ること。

エンサイン・ローレルだけのキャンピングは許可されない。M I A標準の一つ「安全」と言うことによって高い山の登山は許可されていない。

海水浴について。

一、海水浴を行う日程と場所の指定について
支部長の認可を受けること

二、リーダーは経験のある神権者を選ぶこと
三、リーダーの他に数人の実行委員を作ること。
(場所について知っておくこと)

四、出発と帰る時、全員の祈禱会を開くこと
五、女子はビキニスタイルの水泳着は許可されていない。グリーンナー及びローレルは注意すること。キャンピングにおいても海水浴においても日程及費用、責任者をはっきり各家庭に通知しておくこと。(印刷物によって)リーダーは帰宅すべき時間を厳守すること。ではたのしい夏を向えましょう



第二部 時満ちたる神権時代の開始

第十一章 教義と教会管理に関する啓示

(千八百二十九—千八百三十年)

九、教会の大会。 教会の長老たちは三カ月毎に一回大会を開くか、または生ずる事務を処理するために彼らの定めるところに従い、時々会合するように命ぜられる。按手聖任された者はすべて聖任の証明書を受けるはずであって、教会の役員として受け入れられるには教会員の支持の挙手によらなければならない。

十、平教会員の義務。 およそ教会の会員として受け入れられるには、その身の罪を悔い改めた後にバプテスマを経なければならぬ。新しい会員は確認の儀式を受け聖餐

にあずかるに先だち、充分の時日を費して福音と教会管理とを教わるべきである。教会員の子女は教会の長老たちのもとに連れて来られ、長老たちから祝福を受けるべきである。すべて教会員は主イエス・キリストを憶えて聖餐にあずかるためしばしば会合しなくてはならない。聖餐をわかれ与える長老または祭司は「教会員と共にひざまずきておごそかに祈り、父なる神の御名を呼び奉りて」主自らが親しく与えたもうた祈りの言葉をその通りくり返してささげる。

十一、罪を犯した教会員。 神の誠命または教会の規則を破った教会員は、聖典の指図するところに則って処置しなければならない。もし破門される者があるなら、その者の名前を「抹消して」教会の記録にその名前をとどめては

ならない。

十二、推薦状。 およそ会員の記録は一冊の本に記帳し、会員が一支部から他の支部へ移るときには彼らが善良な会員である旨を述べた推薦状もしくは証明書を与える。この証明書はその会員が加入したいと思う支部の管理役員に提出されるべきである。

十三、総括。 以上の誠命と指図は教会が組織される少し前に、教会管理に当りジョセフ・スミスと彼の同僚とに導きを与えるため、ジョセフ・スミスを通してたまわった。以上の誠命と指図には福音の根本原則と教会の教義とが述べてあるので全く大切なものである。これらには原始教会にはよく知られていたが、救い主とその弟子たちによって定められた標準に叛いて離反した世々の間に失われたりゆがめられたりした多くのことがはっきり説明してある。これらは人類を救うために、すべての神祕論と誤りとを含まないで、その単純な姿のまま再び元の通りに回復されたのである。

第十二章 教会の組織

(千八百三十年)

一、教会組織さる。 イエス・キリストの教会が組織されるべきことは、メルケゼデク神権が授けられて間もなく

知らされた。ファザー・ピーター・ホイットマーの宅でジョセフ・スミスとその同僚に主が御言葉をたまわったのは彼らが厳肅な祈りをささげた後のことであった。予言者はそれを次のように記している。

「主はわれらに命じて宣うた。私がまずオリヴァ・カウドリを按手聖任してイエス・キリストの教会の長老とし、次にオリヴァも私を按手聖任して同じ職に就けよ。それからおりおり私たちに知らされるままにほかの者を按手聖任せよと。しかしながら、すでにバプテスマを受けている兄弟たちや、これからバプテスマを受けるはずの兄弟たちを集合せることができるような時まで、私たちの按手聖任をのばすように命ぜられた。その時私たちは先の如く互いに按手聖任する手つづきを兄弟たちに承認してもらわなくてはならない。また兄弟たちが私たちを霊の教師としてやることで受け入れるかどうかを決めてもらわなくてはならない。

私たちはまたパンを祝福して彼らと共に裂き、その後葡萄酒をとって祝し、彼らと共に飲むように、それからひきつづき誠命に従い互いに按手聖任し、次に「みたま」が指し示したもうような人々を呼び出してこれらの人々を按手聖任し、またそれからすでにバプテスマを施した人々の頭に手を按いて聖霊を与えるように、すべてこれらのことを主の御名によって為せと命ぜられた」。

二、約束の実現。 千八百三十年四月の六日、約束が事

実となつて現われる時が来た。この日、ジョセフとすでにバプテスマを受けていた数人の人々がピーター・ホイットマー（初代）の宅に集つて主が命じていたもうたように教会組織の手つづきを始めた。それは火曜日であつて集る者六人、すなわちジョセフ・スミス、オリヴァ・カウドリ、ハイラム・スミス、ピーター・ホイットマー（初代）、デビッド・ホイットマーおよびサミュエル・H・スミスであつた。この小さいけれども重要な集りはおごそかな祈りによつて開かれた。それによつて来会者たちは神命によつて言われた通り、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリとを神の王国のことを教える教師としてよこんで受け入れるかどうか、次によこんでイエス・キリストの教会の組織に着手するかどうかはつきり言つてもらいたいと言われた。この二つの提案を彼らは満場一致で賛成した。

「私はそこでオリヴァ・カウドリの頭に手に按いて彼を末日聖徒イエス・キリスト教会の長老に聖任した。それからオリヴァは私を同じく末日聖徒イエス・キリスト教会の長老の職に按手聖任した。私たちは次にパンをとり祝してこれを彼らと共に裂き、葡萄酒もまた祝して彼らと共に飲んだ。それから私たちは一人一人の会員が聖霊の賜を受けるよう按手をして、キリストの教会の会員たることを確認した、聖霊が豊かに私たちの上にお降りになり、私たちす

べてが主をほめたたえて非常によこんでいる際に予言をした者もあった」。

中で最も年長であつたハイラム・スミスでさえもわずかに三十一才であつたこれら六人の青年たちは、教会を組織するに先立ってすでにバプテスマを受けていた。しかしこれらの六人はその記念すべき日すなわち千八百三十年四月六日に全員が再びバプテスマを受けたのであつた。

三、記録をつけるべきこと。 彼らがまだその教会組織の集会を開いていたうちに一つの啓示が教会に下り、それによつて記録をつけるべきこと命ぜられた（教義と聖約第二十一章参照）。

その記録の中でジョセフ・スミスは、「父なる神のみこころと汝らの主イエス・キリストの恩恵とにより、聖見者、譚訳者、予言者、イエス・キリストの使徒、教会の長老」と呼ばれるはずであつた。

また教会員たちは、彼が上より受けるままに与える彼の言と誠命とをみな心に留めてよく聞けと命ぜられた。「汝ら全き忍耐と信仰とを以て、あたかもわが口より聞くがごとくにこれを受け入るべきなればなり」と主が仰せになつた。これらの事をするならば「地獄の門」も彼らにうち勝たないにちがいない、主が暗黒の力を追いはらいたもうからである。予言者はもはやシオンのためになぐさが必要がないにちがいない。シオンのよろこぶ時代が間近にあつた

ので、彼は靈感を得て大いなる力でシオンの大事業を推し進めるからである。オリヴァ・カウドリは「わが教会員と世の人々、然り異邦人の前に……またユダヤ人の前にも、教えを説くわが教会の最初の説教者」に任命された。

四、教会の行く先。ここに述べたように「決して亡びざる王国……にして永遠に立つ」故に全地をみたすまでに成長し拡大する将来をもった一つの力がこの世にあらわれた。しかしながら、組織された当時その影響と力とは些々たるものと思われていた。それでも、それは当時でさえ悪人たちの胸の中に驚ろきとおそれとをひき起したので、その力を破るために熱心な努力がつけられた。

五、他の者たちが導きと教えを施すために召される。

集会が終る前にジョセフとオリヴァは他の兄弟たちを呼び出して「みたま」の示したもうまに彼らを神権のうちのいろいろな職、たぶんアロン神権のうちのいろいろな職に按手聖任した。主の「みたま」は彼らの上に豊かに注がれ、主の与えたもうた数々の祝福を互いに証したり目撃したりして幸福な時を過してから散会したが、彼らは今や一人一人がイエス・キリストの教会の会員であり、しかもそのように神から認められたことを知った。この時教会を組織した六人以外の者も出席していた。教会または宗教団体を正しく組織するには法律によって六人が必要であったが、出席していた六人以外の者もこの集会で主の「みたま」

を受け真理を悟ったから進み出て教会に加わりたと言った。その後間もなくこれらの者もバプテスマを受けた。その中には予言者の両親のジョセフ・スミス（初代）とルシイ・マック・スミスおよびマーテン・ハリスとオリン・ポーター・ロックウェルがいた。

六、新しき且つ永遠の誓約であるバプテスマ。すでに述べたように、最初に教会の会員となった六人の者たちは教会組織の当日にみな再びバプテスマを受けた。この行為は、すくなくとも一部分、バプテスマが罪を赦されるためであると共に教会へ入る門口であるためであった。四月の六日以前に、教人の者はすでにバプテスマを受けていた（第九章参照）。ところが、すでにバプテスマを受けていた者の中に、何故またバプテスマを受けなくてはならぬかという問を出した者があった。再びバプテスマを受けずに教会に入りたいと言う者があるによって、予言者はこの件について主に伺いその結果次の啓示を受けた。

「見よ、われ今汝らに告ぐ。すべて旧き誓約は、この事に於てわれこれを廢らしめたり。而してこの事は新しき且つ永遠の誓約にして、すなわち始めよりありしところのものなり。これを以て、たとえ人百度バプテスマを受くといえども、それは効なきものなり。それは汝らモーセの律法にてもまた汝らの死にたる業によりても、狭き門より入るこゝと能わざればなり。われ、わが為にこの最後の誓約をここ

に立てさせ、またすなわち古えの時代に於ける如きこの教会を建てさする所以は、実に汝らの死にたる業あるがためなり。これを以て汝ら、わが命じたる如くかの門より入れ而して汝らの神を議せんとすることなかれ。アーメン。

第十三章 教会公けの伝道開始

(千八百三十年)

一、最初の公開説教。千八百三十年四月十一日(日曜日)に改宗者獲得の働きが公けに開始され、最初の説教はオリヴァ・カウドリが行った。この集りは先週の火曜日に教会組織の集会があった「ファザー」・ピーター・ホイットマーの宅で約束によつて開催された。そして会員と求道者と合せて相当数の出席者があった。その会は出席者の心に良い印象を与えて同日ハイラム・ペーじ、カザリン・ペーじ、クリスチャン・ホイットマー、アン・ホイットマー、ジェコブ・ホイットマー、エリザベス・ホイットマーたちがバプテスマを受けた。それから一週間たつて(四月十八日)ピーター・ホイットマー、メアリ・ホイットマー、ウィリヤム・ジョリー、エリザベス・ジョリー、ヴェンセント・ジョリー、リチャード・ビー・プレストン、エリザベス・アン・ホイットマーなどの人々が教会へ加入した。

二、コーレスヴィルに於けるジョセフ・スミスの伝道。

四月の末つ方、ジョセフ・スミスはニューヨーク州ブルム郡コーレスヴィルに住むナイト氏の家族を訪れた。ジョセフ・スミスはジョセフ・ナイト(初代)とそれまで非常に親しい間柄であつて、モルモン経の原版から翻譯をしていたうちにナイト氏からおりおり物質上の援助を受けたことがあつた。ナイト氏とその家族はユニヴァーサリスト(普遍救済論者)であつて自由寛大な見解をもつていた。そして聖文について友好的な精神でジョセフ・スミスとよろこんで論じあつた。コーレスヴィルでは数回公けの集会を開き、多数の友人や未知の人々がこれに出席した。中でもジョセフ・ナイト(初代)の息子ニユエル・ナイトはこれらの集会にいつもかささず出席し、深い印象を受けた様子であつた、彼と予言者とは霊の問題と救いの計画とについてたびたび会話を交え、それによつて彼は心に良い印象を受けた。彼はこれらの集会の一つで声を出してお祈りをし、ジョセフに援助をしようとする約束をしたが、いざその時になつて勇氣がくじけた。後ほど彼はひとり森の中へ出かけて行つてたれも人のいないところで、明らかにこれまで慣れていないことであるが声を出して祈りを捧げたいという望みを言いあらわした。その翌朝、彼は前日の集会で約束を守らなかつたので良心に痛みをおぼえつつ、自分のした約束を実行するためにひとり森の中へ入って行つた。

支部所在地

阿倍野	大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
旭川	旭川市八条五丁目
福岡	福岡市東菜院二ノ四〇
群馬	高崎市並渡町二七五
広島	広島市古田町古江四〇〇ノ三
金沢	金沢市成瀬町一ノ四 野田方
甲府	甲府市山田町六三
松本	松本市沢村町一六〇四
室蘭	室蘭市幸町八九
名古屋	名古屋市中昭和区北山町三ノ四一
新潟	新潟市中大畑町五七七 金井方 電(一八六六)
西ノ宮	兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
岡町	大阪府豊中市岡町北二ノ一八
岡山	岡山市弓野町六一
小樽	小樽市富岡町一ノ三五
三ノ宮	神戸市灘区篠原本町四ノ三五 電(八二六〇)
札幌	札幌市北二条西三丁目 電(五一〇八九七)
仙台	仙台市光禪寺通り二八
東京中央	東京都渋谷区八幡通一ノ三四 電(四〇八三三〇七)
東京北	東京都豊島区千川町一ノ二三ノ七 電(九五一一六〇一四)
東京南	東京都大田区南千束町二四九 電(七二八二六三二)
東京西	東京都港区青山北町六ノ三四 電(二一七五八〇)
山形	山形市八日町五八〇
柳井	山口県柳井市今市三九一
横浜	横浜市長北区篠原町二九 電(四九一八七二)
普天間	沖縄宜野湾村野嵩区三三八
那覇	沖縄那覇市松尾区一三九

編集後記

▼今年の梅雨は陽性のようですか？集中的に雨が降っていますが、もう水害が出た所もあるとか、みなさんの地方はいかがでしょう。

▼七月は開拓者記念の月です。毎年ですと、開拓者の特集記事が、デカデカとのせられるのに、今年はそれらしい記事が一つもありません。開拓者記念日に関する原稿が一つも集りませんでした。そのかわりということもないのですが、大塚兄弟の演劇脚本がのせられました。昨年の七月号にはビスガの義勇兵のせてあり、ちょうど一年目、また彼のファイトの固りみたいな脚本に接して、うれしくなりました。昨年の安保闘争もこの変動のげしい社会ではすでに、一つの事件として忘れられようとしています、しかし一度ふりかえって考えてみても無駄ではなさそうな気がします。

▼編集部では、できるかぎり皆様の要望に答えられるものと努力をかかえておりますがその都度手違いなどで、迷惑をかけることをおわびいたします。教会唯一のこの機関誌をもっと良いものに育てるために、皆様の声をどしどしお寄せください。(六月号編集後記にある、佐藤栄子、裏二兄弟の結婚式は五月二十九日の誤りでした。おわびいたします)

七月号表紙 この記念碑はブリガム・ヤングが盆地を見渡して、「これが正にその土地である」と宣言した盆地を見下ろす東部の山腹に位置している。



月刊「聖徒の道」第五巻第七号

一九六一年七月一日発行

実価

一カ年 六〇〇円
半年 三〇〇円
一部 五十円

編集兼
発行人

ポール・C・アンドラス

発行所

東京都港区麻布広尾町十四
末日聖徒イエス・キリスト教会
北部極東伝道部

内 案 書 図

教義と聖約	高価なる真珠	上質革製合本……	一一〇〇円
モルモン経	教義と聖約	合本……	三〇〇円
高価なる真珠	モルモン経 (新訳) ……	二〇〇円	
信仰箇条の研究	モルモンとは……	一〇〇円	
完成への道……	二〇〇円		
初等協会教科書……	一五〇円		
総合聖句の手引……	一五〇円		
日本系図探究要覧……	一〇〇円		
古代アメリカの生活……	一〇〇円		
旧約聖書物語……	一五〇円		
家督権の祝福……	一〇〇円		
扶助協会手引……	五〇円		

日曜学校用	宗教と生活 II ……	一五〇円
よきおとづれ……	一〇〇円	
聖書物語語……	一五〇円	
福音の実践……	一五〇円	
聖典中の指導者……	一五〇円	
M I A 用	役員と指導書の手引……	一〇〇円
モルモン経研究ガイド……	一〇〇円	
M I A 手引 (付録) ……	五〇円	
演劇指導者基礎知識と脚本集……	七五円	
演説が上手になる法……	一五〇円	
社交ダンス必携……	一六〇円	
新しいフオークダンス……	五〇円	
讃美歌及び歌集	末日聖徒讃美歌 (新版) ……	四〇〇円
手等は歌う……	一〇〇円	
レクリエーション歌集……	四〇〇円	